



# CSR 報告書

## 2008

## 事業概要

### 会社概要

(2008年3月31日現在)

商号	芙蓉総合リース株式会社 (Fuyo General Lease Co., Ltd.)
設立	1969年5月1日
資本金	10,532百万円
上場市場	東京証券取引所 市場第一部 (コード:8424)
従業員数	連結894名、単体558名
本社所在地	東京都千代田区三崎町3丁目3番23号 (ニチレイビル)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>● 情報関連機器、事務用機器、産業機械、工作機械、商業用店舗設備、医療機器、船舶／航空機／車両並びに輸送用機器、建築土木機械、などのリース及び割賦販売業務</li><li>● 金銭の貸付、その他各種金融業務</li><li>● 不動産リース、生命保険の募集業務、各種コンサルティング業務</li></ul>
発行済株式の総数	30,287,810株
営業拠点 (2008年10月3日現在)	本社営業部及び支店:25カ所、海外現地法人:3法人
海外売上高表示の省略	連結会計年度(2007年度)において、全セグメントの売上高及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める国内の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しています。

### 「CSR報告書2008」お問い合わせ先及び情報入手先

芙蓉総合リース株式会社 CSRコンプライアンス室

〒101-8380 東京都千代田区三崎町3丁目3番23号 (ニチレイビル)

TEL:03(5275)8815 FAX:03(5275)8854

# 目次

<p>P2 事業概要</p> <p>P3 編集方針</p> <p>P4 社長メッセージ</p>	<p><b>社会性報告</b></p> <p>P22 ● お客様とのかかわり 情報セキュリティ 新リース会計</p> <p>P24 ● 株主の皆様とのかかわり</p> <p>P25 ● 地域社会とのかかわり 水槽寄贈、エコキャップ運動、寄付</p> <p>P26 ● 従業員とのかかわり 社員研修、人事評価 コース転換、社内公募、育児休業取得</p>
<b>特集</b>	
<p>P6 リース事業を通じた社会への貢献</p> <p>P7 CSR計画と実績</p> <p>P8 ISO認証範囲拡大／ ISO14001 認証取得範囲</p> <p>P9 ESCOサービス／排出権ビジネス、 カーボンオフセットへの取り組み</p> <p>P10 芙蓉リース販売 資源の有効利用に貢献 立川リユースセンターの活動 廃棄物処理の管理</p> <p>P12 ステークホルダーとの対話</p>	<p><b>経済性報告</b></p> <p>P28 ● 経済的パフォーマンス</p>
<b>データ・概況報告</b>	
<b>芙蓉総合リースグループ概要</b>	
<p>P16 ● 芙蓉総合リースグループの歩み</p>	<p><b>環境報告</b></p> <p>P29 ● 芙蓉総合リースグループの環境方針</p> <p>P30 ● 芙蓉総合リースグループの環境目的・ 目標及び実施計画 (2007年度実績と2008年度目標)</p> <p>P32 ● 芙蓉オートリースの環境目的・ 目標及び実施計画 (2007年度実績と2008年度目標)</p> <p>P34 ● 環境マネジメントシステム 内部環境監査、法令順守、環境教育</p> <p>P36 ● オフィスにおける環境への取り組み エコオフィス活動、環境データ</p> <p>P37 ● 2007年度 芙蓉総合リースグループ環境会計</p> <p>P38 「CSR報告書2007」アンケート結果</p> <p>P39 第三者意見</p>
<b>ガバナンスとマネジメント</b>	
<p>P17 ● 芙蓉総合リースグループの ステークホルダー</p> <p>P18 ● 芙蓉総合リースグループの企業行動規範</p> <p>P19 ● コーポレート・ガバナンス</p> <p>P20 ● リスク管理</p> <p>P21 ● コンプライアンス</p>	

## 編集方針

編集の考え方	本報告書は芙蓉総合リースグループのCSR(企業の社会的責任)活動に関する報告書です。経済・社会・環境に関する取り組みをステークホルダーの皆様にご報告することによって、より活発なコミュニケーションを図りながら、芙蓉総合リースグループの取り組みをより深化させていくことを目的としています。なお、編集にあたっては、GRIガイドライン2006を参考としました。
本報告書の構成	本報告書は、特集及びデータ・概況報告で構成しています。
対象範囲	<p>[芙蓉総合リース] ..... 芙蓉総合リース株式会社単体を指します。</p> <p>[芙蓉総合リースグループ] ..... 芙蓉総合リース株式会社及び 子会社175社及び関連会社5社を指します。</p> <p>(注)本CSR報告書の各ページにおいては、子会社名を記載するにあたり「株式会社」の文言は割愛しています。</p>
対象期間	2007年4月1日から2008年3月31日までとし、2008年4月1日以降の重要な情報を反映しています。
発行日	2008年10月(前回 2007年10月)



取締役会長 小倉利之

取締役社長 町田 充

2008年4月1日、経営体制のさらなる充実・強化を図り、一層の発展を目指して、代表取締役社長兼社長執行役員小倉利之が代表取締役会長に、町田 充が代表取締役社長兼社長執行役員にそれぞれ就任しました。

### 新社長からのご挨拶

私が理想とする会社は、どのような経済環境、経営環境の下にあっても、常にお客様から支持される会社です。経済も社会も変化します。お客様のニーズも時代とともに変化し、多様化していきます。お客様の求めるサービスを絶え間なく提供し続ける会社でありたいと、今後も自らを変革し、理想の会社へ向かって挑戦してまいります。

芙蓉総合リースは1969年の設立以来、総合リース会社としてたくさんのお客様の事業をサポートさせていただいてまいりましたが、今後もリース、ファイナンスのプロとしてさらに磨きをかけ、質の高いソリューションを提供してまいります。

CSR活動においても、芙蓉総合リースグループの特色を活かして、リース・ファイナンスを通じた活動を展開しています。

この「CSR報告書2008」は、芙蓉総合リースグループの第3回目のCSR活動に関する報告書です。第2回目の報告書に寄せられたご意見・ご感想は、大変参考になり、社員一同、CSR活動に取り組む上での励みにさせていただきました。今後も、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの一環として、芙蓉総合リースグループの地道なCSR活動の報告として毎年発行していきたいと考えています。是非忌憚のないご意見・ご感想を賜りますよう、お願い申し上げます。

2008年10月

取締役社長

町田 充

経営理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する。</li> <li>● 顧客第一主義に徹し、最高のサービスを提供する。</li> <li>● 創造と革新を追求し、株主・市場から評価される企業を目指す。</li> <li>● 自ら考え積極的に行動する社員（従業員）を育て、働き甲斐のある職場を創る。</li> </ul>
経営目標	<p>「最高の顧客サービスを創出する強いリース会社」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 強い営業力</li> <li>● 強い管理能力</li> <li>● 強い財務基盤</li> <li>● 強い人材</li> </ul>
2008年度～2010年度 中期経営計画 基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ経営力を強化し、環境変化に打ち勝つ企業基盤を構築する。</li> <li>● 安定した業績と成長性を確保し、ステークホルダーから高い評価を得る。</li> <li>● CSRを重視し、コンプライアンスの徹底と強い人材の育成を図る。</li> </ul>

### 2008年度～2010年度中期経営計画の基本戦略

基本戦略	具体的実施事項（抜粋）	本報告書の掲載ページ
1. 営業基盤の強化	● PCレンタル・Eco&Valueリースの拡大	P 9
	● エネルギー、環境などのマーケットへの取り組み強化	P 9
	● リース終了物件の販売強化	P 10～11
2. ローコストオペレーションの徹底	● ペーパーレス化の推進	P 36
3. リスク管理のレベルアップ	● 事務リスク管理の強化	P 20
	● システムリスク管理の強化	P 20
4. 経営管理基盤の充実・強化	● J-SOX法に準拠した体制整備	P 19
	● コンプライアンスの徹底	P 21
	● 強い人材の育成を図る	P 26
	● 環境・社会に貢献する経営体制を目指す	P 25、29～37

### 中期経営計画での目標（連結）

	2007年度（実績）	2010年度目標
営業資産残高	11,663億円	17,800億円
株主資本	789億円	1,100億円以上
自己資本比率	5.6%	5.8%以上
ROA（総資本経常利益率）	1.3%	1.4%以上

（注）株主資本＝資本金＋資本剰余金＋利益剰余金＋（△）自己株式  
 自己資本比率＝（純資産－少数株主持分－新株予約権）／総資本  
 2007年度の自己資本比率及びROAは、日本抵当証券及びシャープファイナンスを期初から含めて計算した場合の数値

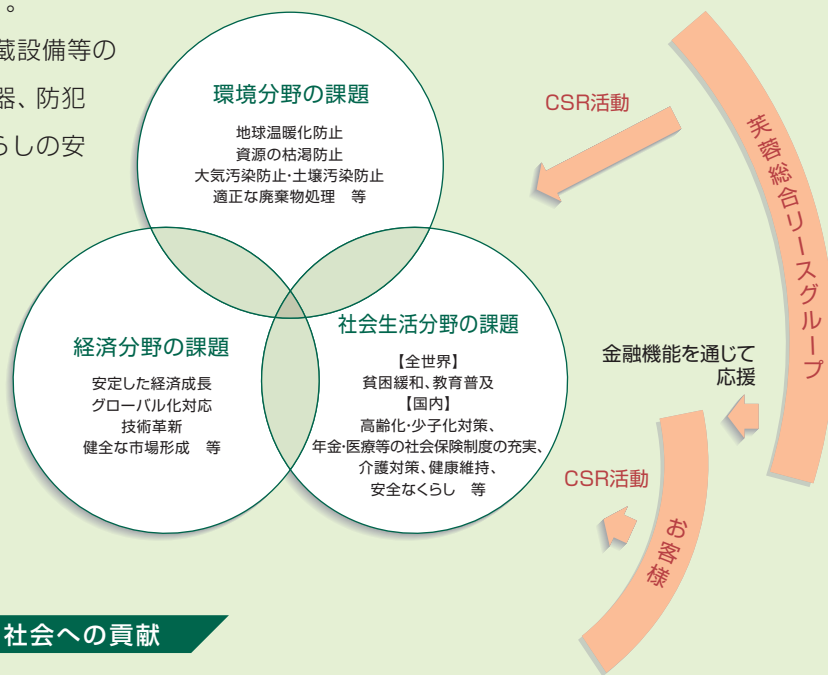
# リース事業を通じた社会への貢献

芙蓉総合リースグループは、リース事業を通じて社会への貢献を果たしています。環境白書等では、「モノの消費や所有」にこだわらず、モノの持つ機能を提供する環境ビジネスモデルの一つとしてリース事業が紹介されています。リース事業は、機械等を必要な期間使用するという環境に配慮した仕組みとなっています。

## お客様の資金調達をご支援する金融機能を通じた社会への貢献

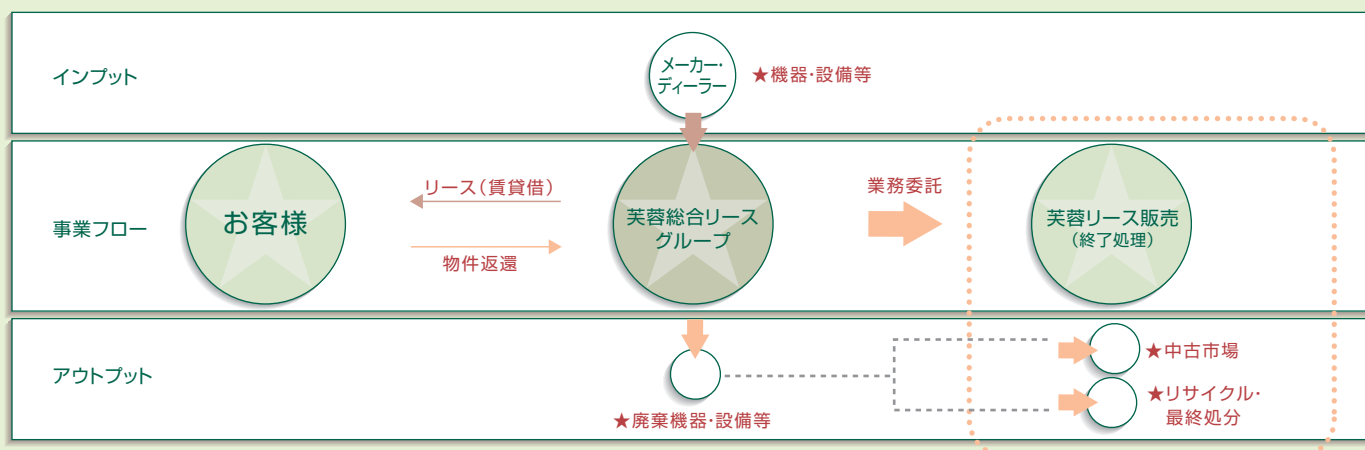
環境分野では、お客様が省エネ設備等を導入される際の資金調達面で、環境配慮型物件のリース、エコカーリース、風力発電事業へのプロジェクトファイナンス、ESCOサービスなどを通じてご支援しています。

社会生活分野では、食品の検査機器、冷凍冷蔵設備等のリース、鉄道保守車両等のリース、防災関連機器、防犯関連機器等のリースにより、食生活、交通、くらしの安全を支えているお客様をサポートしています。



## リース終了後のリース物件の処理を通じた社会への貢献

リースした機器・設備等がリース契約終了後、芙蓉総合リースに返還されるため、リユース(再使用)やリサイクル(再生利用)などで循環型社会構築に寄与しています。



## CSR計画と実績

「2008年度～2010年度中期経営計画」の中で、基本戦略の一つである「経営管理基盤の充実・強化」の具体的課題として「環境・社会に貢献する経営体制を目指す」ことを掲げ、CSR活動を展開しています。

CSR活動の2007年度実績と2008年度計画をご報告します。

施策	2007年度実績	2008年度計画
<b>1</b> ISO14001の認証取得とその維持、対象範囲の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 芙蓉総合リース全支店、ワイ・エフ・リーシング、芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室についてISO14001の認証範囲を拡大</li> <li>② 芙蓉オートリースについてISO14001の認証取得準備完了</li> <li>③ 内部環境監査を監査室と連携して実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 芙蓉オートリース、エフ・ネット営業本部についてISO14001の認証を取得</li> <li>② 日本抵当証券についてISO14001の認証取得の準備</li> <li>③ 取得済みのISO14001の認証を維持</li> <li>④ 内部環境監査を監査室と連携</li> </ul>
<b>2</b> ISO14001を活かすための諸施策を充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境目的、目標及び実施計画に従った諸施策の実施</li> <li>② 環境データ管理の充実、環境会計導入準備完了</li> <li>③ CSR報告書の発行、外部コミュニケーションの実施</li> <li>④ CSR報告書の第三者意見を導入</li> <li>⑤ 「ステークホルダーとの対話」を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境目的、目標及び実施計画を見直し、諸施策の充実に図る</li> <li>② 環境会計の導入</li> <li>③ CSR報告書の発行、外部コミュニケーションの実施 環境会計、「ステークホルダーとの対話」をCSR報告書へ掲載する</li> <li>④ 「ステークホルダーとの対話」を引き続き実施</li> </ul>
<b>3</b> 芙蓉総合リースの特徴を活かした社会への貢献を検討	社会貢献方針、社会貢献プログラムの策定	社会貢献プログラムに基づく活動を実施 社会貢献プログラム（抜粋） <b>【1】社会貢献活動</b> ① 環境 ・芙蓉リース販売立川リユースセンターでの3R活動の拡充 ・お客様の所有する遊休中古資産の査定・売却業務の実施 ・排出権の活用を検討 ② 地域社会への貢献 ・地元幼稚園にアクア・アート水槽を寄贈 ・地元町内会のお祭りへの協賛の積極化 ③ 学術・研究 ・リース事業における循環型社会構築に向けた実務面の最新動向やノウハウなどを、大学等で発表 ④ 災害被災地支援 <b>【2】社内制度の検討</b> ボランティア休暇制度の導入研究
<b>4</b> リース事業協会の地球温暖化自主行動計画に参加し目標を達成する	（リース事業協会は、2008年度より地球温暖化自主行動計画に基づく活動を開始）	2008年度の目標として芙蓉総合リース本社の床面積あたりの電気消費量を基準年度（2002年度）対比3%減とすることとし、その達成を目指す

## ISO 認証範囲拡大

### 芙蓉総合リースグループのISO14001 認証取得範囲を拡大中

2008年7月、芙蓉オートリース、エフ・ネット営業本部をISO14001 認証取得範囲に追加しました。

その後、日本抵当証券での認証取得に向けて活動しています。

2008年4月に子会社となったシャープファイナンスは、1997年6月に「シャープ株式会社本社部門・関係会社グループ」の1社としてISO14001 認証を取得済みです。

過去の芙蓉総合リースグループにおけるISO14001 認証取得状況は以下のとおりです。

- 2006年7月、芙蓉総合リース本社とエフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売本社、エフ・ネット本社、アクア・アートでISO14001の認証を取得。
- 2007年6月、芙蓉総合リースの全支店と芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室、ワイ・エフ・リーシングに範囲拡大し、認証を取得。



## ISO14001 認証取得範囲

適用区域	活動範囲
<b>1 芙蓉総合リース</b> 本社及び支店	リース業、割賦販売、融資その他の金融サービス業務 生命保険の募集業務
<b>2 エフ・ジー・エル・サービス</b>	損害保険代理業 営業事務の受託、総務・庶務事務の受託
<b>3 芙蓉リース販売</b> 本社及び立川リユースセンター	再リース契約代行処理 リース終了物件の売却・廃棄業務代行
<b>4 エフ・ネット</b> 本社技術部、営業本部及び西東京分室	電子計算機・ソフトウェア・通信機器の販売
<b>5 アクア・アート</b>	鑑賞用水槽の製造・販売・レンタル・メンテナンス
<b>6 ワイ・エフ・リーシング</b>	リース業、割賦販売、融資その他の金融サービス業務
<b>7 芙蓉オートリース</b> 本社及び支店	自動車のリース・割賦・売買



## ESCOサービス

### 省エネ活動に役立つESCOサービスのご提供

芙蓉総合リースは、環境機器や省エネ設備などの環境配慮型物件のリースを全社で積極的に推進するとともに、風力発電事業へのプロジェクトファイナンスやESCO(Energy Service Company)サービスの提供など専門性の高い事業を展開しています。

ESCOサービスとは、ESCO事業者がお客様に省エネルギー改善に必要な、技術・設備・資金などを包括的に提供するサービスです。お客様は、省エネに伴い水道・光熱費を削減することができ、削減費用の一部からESCO事業者へサービス料を支払います。

沖縄県立北部病院様向けESCOサービスでは、芙蓉総合リースを含めた7社で構成する共同事業者(代表:横河電機株式会社様)がESCO事業者として、省エネ促進に向けたサービスをご提供しています。

沖縄県立北部病院様は、ESCOサービスを導入することにより省エネを推進し、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を削減することができます。



貫流ボイラー

**お客様:** 沖縄県立北部病院 様  
**導入設備:** 高効率インバータターボ冷凍機、貫流ボイラー、他  
**省エネ予想効果:**  
二酸化炭素削減量  
年間2,100(t-CO<sub>2</sub>)  
**本格稼働:** 2008年4月

## 排出権ビジネス、カーボンオフセットへの取り組み



排出権取引についての勉強会

### 1. 排出権取引<sup>※1</sup>についての検討

排出権取引について専門家を交えての勉強会を、担当役員、専門部で実施しました。

### 2. 排出権管理口座の取得

2008年3月、排出権取引の基本となる排出権管理口座を取得しました。

### 3. 排出権信託受益権の購入

2008年5月、排出権信託受益権1,000(t-CO<sub>2</sub>)<sup>※2</sup>を購入しました。

### 4. PCレンタル・Eco&Valueリース<sup>※3</sup>を通じたカーボンオフセット<sup>※4</sup>

PCレンタル・Eco&Valueリースの契約パソコン1台あたり排出権10(kg-CO<sub>2</sub>)を国に寄付します。このカーボンオフセットにより、芙蓉総合リースは国の温室効果ガスの削減に貢献することになり、ご契約されたお客様は、間接的に国の温室効果ガスの削減に貢献されることとなります。



排出権信託受益権証書

※1 排出権取引:温室効果ガス(二酸化炭素、メタンやフロンガスなど)を排出する権利の取引

※2 二酸化炭素の排出量の単位は、t(トン)-CO<sub>2</sub>などと表示します。

※3 パソコンのリユース(再利用)を促進するリースサービスです。

※4 カーボンオフセットとは、日常生活や経済活動で避けることのできないCO<sub>2</sub>排出について、はじめに排出削減努力を行い、それでも削減が難しい場合に、排出削減プロジェクトに投資することによって、自らの排出を「埋め合わせる」ことです。

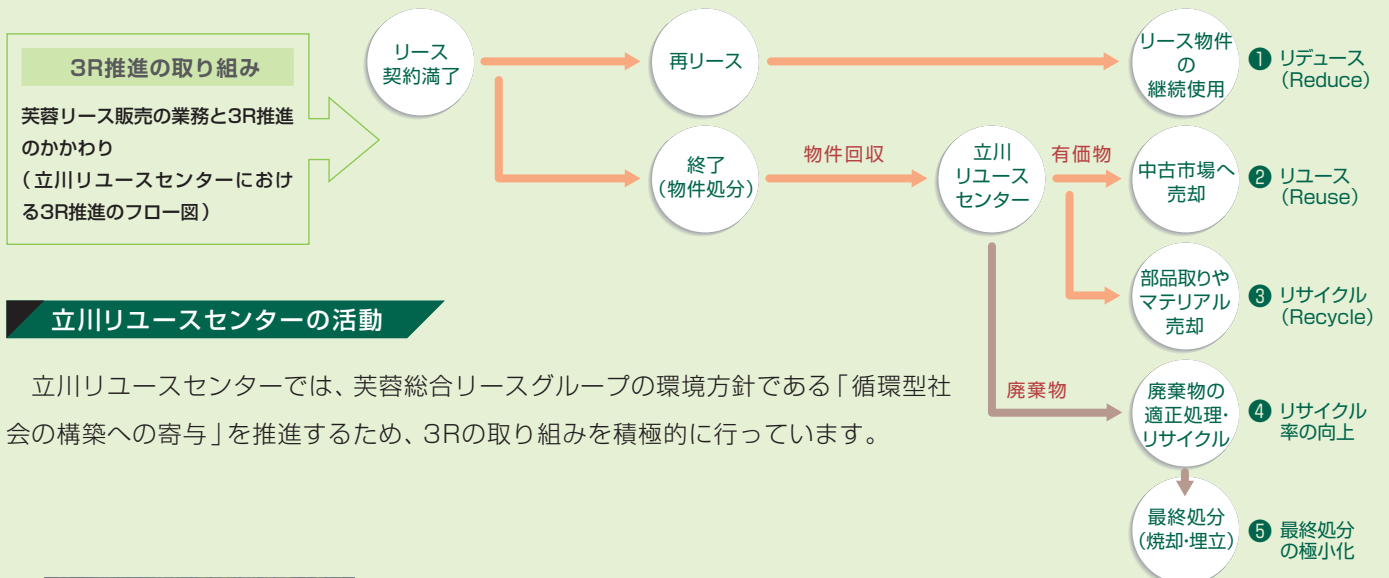
## 芙蓉リース販売 資源の有効利用に貢献

芙蓉リース販売は、芙蓉総合リースのリース満了処理を担うにあたり、芙蓉総合リースグループの環境方針の下、3R<sup>※</sup>に貢献することを宣言しています。

芙蓉リース販売は、リース契約満了処理により、再リースを通じてリデュースを、リース終了時の物件処分を通じてリユース、リサイクルを推進できる立場にあります。

芙蓉リース販売では、このリユース、リサイクル推進のため2006年2月に東京都立川市に立川リユースセンターを開設し、3Rを実践する取り組みを開始しました。立川リユースセンターでは、全国から回収したリース終了物件を、中古品として利用できるものは商品化してリユースを推進しています。また中古価値のない物件でも、できるだけ手作業で分解のうえ、マテリアル業者に売却するなどのリサイクルを推進しています。開設から2年余りを経て3Rへの貢献度は飛躍的に向上していますが、今後も質・量の両面で継続的に改善を図り、社会に貢献していきます。

※ 3Rとは、Reduce(リデュース:廃棄物の発生抑制)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再生利用)のことです。



### 立川リユースセンターの活動

立川リユースセンターでは、芙蓉総合リースグループの環境方針である「循環型社会の構築への寄与」を推進するため、3Rの取り組みを積極的に行っています。



DOWAホールディングスグループ  
DOWAエコシステム株式会社 様

#### 立川リユースセンターの活動へのご意見

私どもDOWAエコシステム株式会社では、創業120年の歴史で培ったさまざまな鉱山・非鉄製錬技術、インフラを駆使し、リサイクル・廃棄物処理・土壌浄化を中核とした環境事業を展開しております。

弊社の強みは、19種類もの金属回収を行っていること、鉛などの有害物質の適正処理を行えること、自社最終処分場を保有していること、さらに国内に2つ家電リサイクル工場をもち、緻密な解体や分別も行っていることです。

株式会社芙蓉リース販売様は、弊社の体制と環境方針をご理解いただき、立川リユースセンターにおいてOA機器等の分解によって抽出された電子基板を、弊社グループへ仕向けていただいております。また、他企業様へも弊社をご紹介、ご推薦いただくなど、ともに弊社の目指す資源循環型社会の実現に向けて積極的に参画いただいております。



データ消却作業



立川リユースセンター



商品化作業



データ消却できないHDDの破壊



入札会を待つPC群

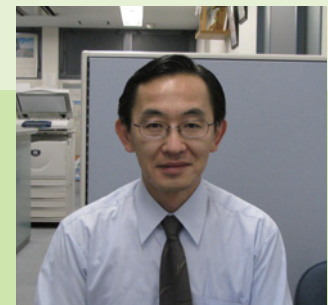
## 廃棄物処理の管理

リース終了物件の処分は立川リユースセンターを中心にリユース、リサイクルの取り組みを推進し、極力廃棄物の処理量の削減を図っています。また、廃棄物として処理を行う場合には産業廃棄物処理の許可を持つ全国33カ所の優良処理業者に廃棄処理を委託しています。委託処理業者の管理については最低年1回専門の担当者が現地訪問調査を実施し、格付表による評価を継続しています。格付表の評価項目は、情報公開性・順法性・環境保全への取り組みのほかにリサイクル率の項目も設定しており、リサイクル率の高い処理業者を選定することにより、最終処分の極小化を推進しています。

電子マニフェストへの切り替え、また2007年10月に施行された改正フロン回収・破壊法に伴うフロン行程管理等廃棄物の処理工程の管理についても徹底しています。

株式会社要興業では、株式会社芙蓉リース販売様から委託を受けたリース終了物件を産業廃棄物として処理しています。そんな当社にとって、芙蓉リース販売様の印象は一言でいうと実に厳しい企業様ということになるのでしょうか。毎年、必ず現地に訪問調査にいらっしゃいますし、常に当社の順法性、透明性を評価されています。その厳正な視点により、当社も企業としてレベルアップし、他のお客様の信用も確保しているというのが実情です。

当社では、芙蓉リース販売様と取引させていただく上で3つの事項を徹底して実施しています。まずは廃棄物処理業としての順法の徹底です。次にISO14001:2004取得企業としてのリサイクルの徹底です。最後にISO27001:2005取得企業としての情報セキュリティ体制の充実です。今後も、この取り組みにより、芙蓉総合リースグループ様の社会貢献への取り組みに微力ながら参加させていただき所存です。



株式会社要興業  
総務部 次長 安藤 雅弘 様

芙蓉リース販売へのご意見

## ステークホルダーとの対話

芙蓉総合リースは、環境活動を含むCSR活動を外部の利害関係者様にご理解いただくことを目的として、「ステークホルダーとの対話」を開始しました。

ステークホルダーの皆様すべてを対象とするべきですが、まずは、お客様（リース契約のユーザーのほか、メーカー・ディーラーなども含む）と従業員を対象としました。対話の方法は、お客様の中で、CSR報告書を発行してCSR活動を積極的に行っている企業との対話を行い、その結果を社内で従業員へアピールすることにしました。

### 横河電機株式会社 様 (東京都武蔵野市)

#### CSR報告書

<http://www.yokogawa.co.jp/cp/csr/cp-csr-report-index.htm>

#### 横河電機株式会社様のご出席者

取締役専務執行役員	CSR推進室 室長
八木 和則 様	中野 廣志 様
	CSR推進室
	田代 孝尋 様
	吉田 義人 様

(役職・組織名は訪問時点のものです。)



#### 情報交換の主な内容

- ① 省エネルギー・環境ビジネスへの展開について
- ② 「心」「知」「身」の3テーマでの社会貢献活動について
- ③ 環境教育や社員の環境活動への意識付けなどについて
- ④ 芙蓉総合リースへのご意見、ご要望等について



### 大成建設株式会社 様 (東京都新宿区)

#### CSR報告書

[http://www.taisei.co.jp/about\\_us/csr/houkoku/index.html](http://www.taisei.co.jp/about_us/csr/houkoku/index.html)

#### 大成建設株式会社様のご出席者

安全・環境本部 環境マネジメント部長	社長室 経営企画部長	経営企画部 企画管理室 兼CSR推進室課長代理
大竹 公一 様	岡子 龍男 様	阪田 賢 様
安全・環境本部 環境マネジメント部 地球環境チーム課長代理	経営企画部企画管理室長 兼CSR推進室長	広報部 社会貢献推進室室長
岡田 太一 様	島本 幸一郎 様	小林 修 様

(役職・組織名は訪問時点のものです。)



#### 情報交換の主な内容

- ① 建設の営業における環境に関する提案(省エネ等)について
- ② 本業での社会貢献活動について
- ③ 大成建設様のステークホルダーとの対話、工事現場の見学会などについて
- ④ 芙蓉総合リースへのご意見、ご要望等について



**株式会社山武 様**  
(東京都千代田区)

**CSR報告書**

<http://jp.azbil.com/library/report.html>

**株式会社山武様のご出席者**

取締役執行役員常務	内部統制推進部長 理事 (CSR担当)
佐々木 忠恭 様	齊藤 洋 様
財務部長	環境 標準化推進部長
熊田 大史 様	里村 修平 様

(役職・組織名は訪問時点のものです。)



**情報交換の主な内容**

- ① 「基本的CSR」と「積極的なCSR」について
- ② 環境マネジメントシステム、環境教育について
- ③ 社会貢献活動、特に「湘南国際マラソン」について
- ④ 環境・社会報告書とアニュアルレポートを合体したCSRレポートについて
- ⑤ 芙蓉総合リースへのご意見、ご要望等について



**サラヤ株式会社 様**  
(大阪市東住吉区)

**CSR報告書**

<http://www.saraya.com/env/>

**サラヤ株式会社様のご出席者**

専務取締役 生産本部 本部長	営業統括本部 広報宣伝部 部長	経営企画室 ISOナレッジグループ グループ長
富田 晋平 様	代島 裕世 様	平井 武志 様
経理本部 財務部 部長	営業統括本部 管理部	経営企画室 ISOナレッジグループ マネージャー
熱田 裕司 様	吉川 浩彰 様	横山 聡 様

(役職・組織名は訪問時点のものです。)



**情報交換の主な内容**

- ① ISO14001の環境目標のレベルアップについて
- ② 社員への環境教育や研修で工夫されている点について
- ③ パーム油に関する環境保全プロジェクトの社会貢献活動について
- ④ 芙蓉総合リースへのご意見、ご要望等について

# O u r B e l i e f

わたしたちはリース事業を通じて、地球環境の保全に配慮しながら、  
企業活動をサポートすることで、社会の発展に貢献していきます。





## 芙蓉総合リースグループ概要

---

P16 芙蓉総合リースグループの歩み

## ガバナンスとマネジメント

---

P17 芙蓉総合リースグループの  
ステークホルダー

P18 芙蓉総合リースグループの  
企業行動規範

P19 コーポレート・ガバナンス

P20 リスク管理

P21 コンプライアンス

## 社会性報告

---

P22 お客様とのかかわり

P24 株主の皆様とのかかわり

P25 地域社会とのかかわり

P26 従業員とのかかわり

## 経済性報告

---

P28 経済的パフォーマンス

## 環境報告

---

P29 芙蓉総合リースグループの環境方針

P30 芙蓉総合リースグループの環境目的・  
目標及び実施計画  
(2007年度実績と2008年度目標)

P32 芙蓉オートリースの環境目的・目標  
及び実施計画  
(2007年度実績と2008年度目標)

P34 環境マネジメントシステム

P36 オフィスにおける環境への取り組み

P37 2007年度 芙蓉総合リースグループ  
環境会計

## 芙蓉総合リースグループの歩み

芙蓉総合リースは、1969年に総合リース会社として発足し、2004年12月に東京証券取引所市場第一部に上場しました。

### 沿革

年	月	主要事項等
1969年	5月	丸紅飯田株式会社（現 丸紅株式会社）、株式会社富士銀行（現 株式会社みずほコーポレート銀行）を中心に、芙蓉グループ6社を株主とする総合リース会社として発足
1973年	5月	千代田エンタープライズ株式会社（現 株式会社エフ・ジー・エル・サービス）設立
1985年	2月	レバレッジド・リースの取り扱い開始
1987年	1月	芙蓉オートリース株式会社設立。横河電機株式会社と合併にて横河レンタ・リース株式会社設立
1988年	4月	スペースリースの取り扱い開始
1990年	4月	アクア・アートの取り扱い開始
1995年	4月	株式会社エフ・ネット設立
1996年	4月	株式会社芙蓉リース販売設立
1999年	12月	株式会社ニチイ学館と共同出資により株式会社日本信用リースを設立
2001年	4月	安信リース株式会社と合併
2002年	1月	横河電機株式会社と合併にて株式会社ワイ・エフ・リーシング設立
	4月	安田リース株式会社と合併。芙蓉総合開発株式会社のリース・金融事業を分割承継
2004年	12月	東京証券取引所市場第一部上場
2005年	4月	医療福祉営業室を設置
2006年	4月	エネルギー・環境営業室を設置
2006年	7月	本社と関係会社4社を含む2事業所でISO14001の認証取得
2007年	5月	日本抵当証券株式会社を子会社化
2007年	6月	ISO14001の認証範囲に28支店、関係会社1社を追加
2008年	4月	シャープファイナンス株式会社を子会社化

### 主な子会社

#### 芙蓉オートリース株式会社

芙蓉オートリースは、自動車のリースを行う芙蓉総合リース100%出資子会社です。自動車を多数利用する企業や法人のお客様に、費用面での負担を平準化するだけでなく、自動車保険や管理上のメンテナンスなどを付加したサービスをご提供するほか、環境関連法令の紹介や車両の利用に必要な手続きなどの情報提供も実施しています。

#### 日本抵当証券株式会社

日本抵当証券は、1973年設立の国内で最も長い歴史を有する抵当証券取扱専門金融を行う芙蓉総合リース100%出資子会社です。2007年5月にグループの一員となり、不動産関連のファイナンス分野の充実・強化を図り、お客様へ提供するサービスを拡大しています。

#### 株式会社芙蓉リース販売

芙蓉リース販売は、芙蓉総合リースのリース満了契約の再リース手続き並びにリース終了物件の売却及び廃棄にかかわる業務の代行を行う芙蓉総合リース100%出資子会社です。リース終了物件について、環境関連法令等を踏まえた適切な処理を行うことで循環型社会構築に貢献しています。

#### 株式会社アクア・アート

自然環境を再現した熱帯魚水槽のレンタル事業を行う芙蓉総合リース100%出資子会社です。高い技術力とメンテナンスで、オフィスや公共施設などにアクアリウム・インテリアとしてご提供し、小さいお子様からお年寄りまで幅広い皆様に親しんでいただいています。

#### 株式会社エフ・ネット

情報システム（IT）分野において、ネットワークデザインやシステム構築のコンサルテーションを行うほか、Eco&Valueリースの付属品等の保管など、情報ネットワークにかかわる各種サービスを提供している芙蓉総合リース100%出資子会社です。

#### 株式会社エフ・ジー・エル・サービス

書類管理センターを運営するとともに、リース営業事務、リース料の回収、リース物件の動産総合保険の付保手続き等にかかわる事務代行を行う芙蓉総合リース100%出資子会社です。

#### 株式会社ワイ・エフ・リーシング

横河電機株式会社との合併会社として2002年1月に設立し、同年4月に横河レンタ・リース株式会社のリース事業を継承して営業している芙蓉総合リース85.6%、横河電機14.4%出資の子会社です。

#### シャープファイナンス株式会社

シャープファイナンスは、シャープ株式会社の完全子会社でしたが、シャープファイナンスの発行済株式の65%をシャープから芙蓉総合リースが譲り受け、2008年4月にグループの一員となりました。同社はリテールマーケットに強みを持つリース会社であり、芙蓉総合リースの経営戦略の一つである中小企業取引の拡大を図っていきます。



## 芙蓉総合リースグループのステークホルダー

芙蓉総合リースグループのお客様は、ユーザーのほか、メーカー・ディーラーなど広い範囲にわたります。芙蓉総合リースグループは、誠実かつ公正な企業活動の遂行によって、お客様に対し最高のサービスのご提供に努めています。

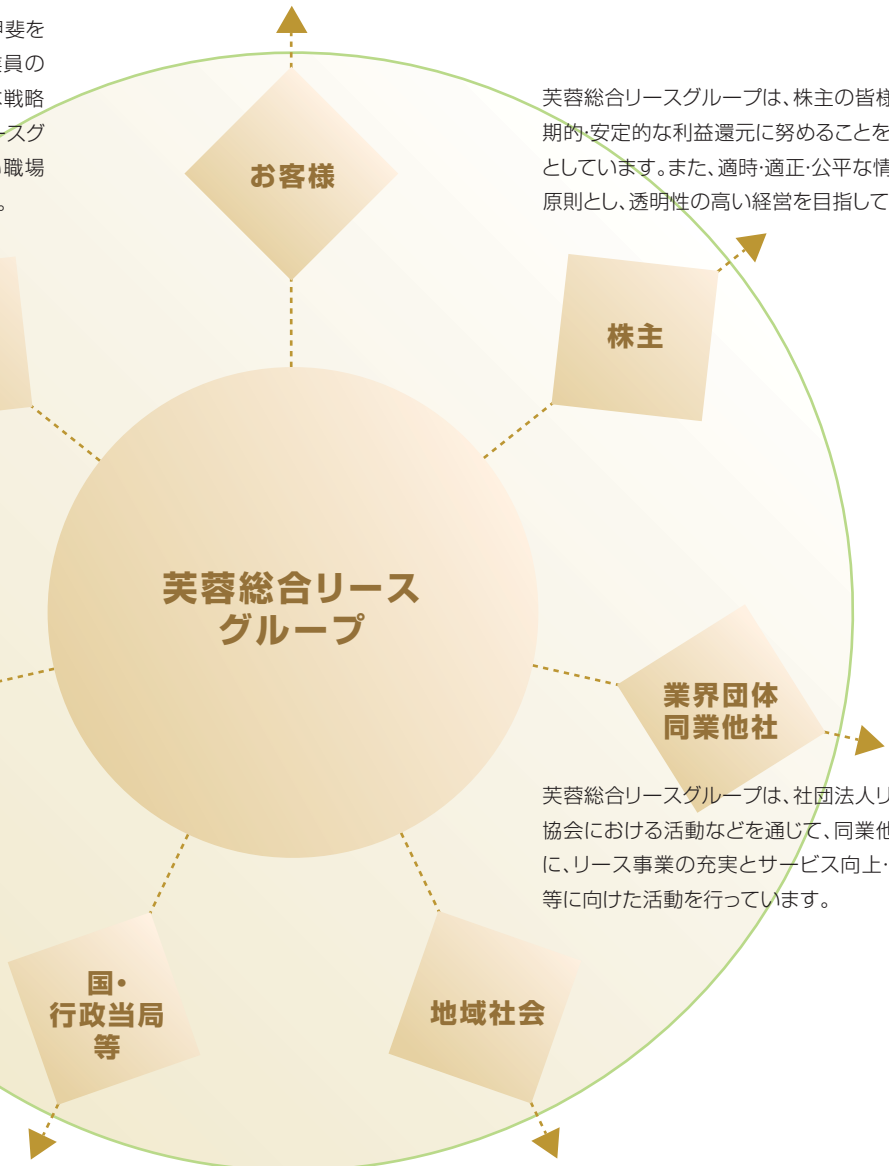
芙蓉総合リースグループは、従業員がやり甲斐を持って働くことのできる環境を提供し、従業員のさまざまな能力を高めていくことが、重要な戦略の一つであると考えています。芙蓉総合リースグループは、すべての従業員に公正で明るい職場を提供し、成果に応じた処遇を行っています。

芙蓉総合リースグループは、株主の皆様に対し長期的・安定的な利益還元を努めることを基本方針としています。また、適時・適正・公平な情報開示を原則とし、透明性の高い経営を目指しています。

芙蓉総合リースグループは、金融機関との高度な信頼関係を維持しつつ、グループ事業に必要な資金を調達しています。



芙蓉総合リースグループは、地球環境問題・地域の自然環境問題に対処し、持続可能な社会を推進するために、自らの環境負荷の低減を目指すとともに、グループ事業を通じて環境への取り組みに努めています。



芙蓉総合リースグループは、国や業務の所管省庁、地方公共団体と適切な関係を保持します。また、海外現地法人所在地の国家や行政当局等とも健全な関係を維持しています。

芙蓉総合リースグループは、社団法人リース事業協会における活動などを通じて、同業他社とともに、リース事業の充実とサービス向上・情報共有等に向けた活動を行っています。

芙蓉総合リースグループは、本社・支店等が所在する地域だけでなく、リース物件の所在地を含め、地域社会の方々・企業・諸団体との接点を重視し、責任ある一企業として地域社会に根ざして活動しています。

## 芙蓉総合リースグループの企業行動規範

芙蓉総合リースグループでは、「企業行動規範」を定め、経営の基本方針としています。企業行動規範は、「基本方針」、「基本姿勢」、「私たちの行動指針」という3つからなり、主要な関係者（ステークホルダー）の皆様への基本姿勢、及び芙蓉総合リースグループに勤務する従業員の行動指針として日々の業務を遂行するにあたって、常に留意すべき事項として位置づけられています。

芙蓉総合リースグループは、「社会的責任と公共的使命」及び「私企業としての存在目的」を高い次元で両立することが求められています。芙蓉総合リースグループが果たすべきCSRは、次の「経済的」「法的」「倫理的」「社会的」責

任であると考えています。

- 適正な利益を追求し、雇用を確保し、効率的な経営を図る経済的責任
- 社会の一員として、企業の一員として、法令をはじめとする諸ルールを遵守する法的責任
- 人権を尊重し、社会的な規範にもとることのない行動をすべき倫理的責任
- 地球を守り、社会と共に歩む「良き企業市民」としての社会的責任

2008年7月、芙蓉総合リースグループの企業行動規範について小冊子を作成し、全役職員に配付しました。

### 基本方針

- ① 社会的責任と公共的使命の認識
- ② 取引先第一主義の実践
- ③ 法令やルールの遵守
- ④ 人権の尊重
- ⑤ 反社会的勢力との対決

### 基本姿勢

- ① 取引先に対する基本姿勢  
取引先の満足と信頼を得るため常に努力し、長期的な信頼関係を築きます。
- ② 株主に対する基本姿勢  
株主に経営内容を正しく伝えるため、積極的に情報を開示し、経営の透明性を高めます。
- ③ 地域社会に対する基本姿勢  
地域社会と共に歩む「良き企業市民」としての役割を果たします。
- ④ 従業員に対する基本姿勢  
職場で共に働く人々が互いに尊重しあい、差別・ハラスメント（いやがらせ）のない職場を作ります。
- ⑤ 仕入先・競争会社に対する基本姿勢  
良識ある企業行動に努め、公正・透明・自由な競争を行います。
- ⑥ 政治・行政に対する基本姿勢  
政治・行政とは健全かつ正常な関係を保ちます。

### 私たちの行動指針

- ① 職場の秩序維持
  - 一人ひとりが高い倫理観をもって自主的・自律的に行動します。
  - 互いに人権・人格を尊重しながら協力して業務を遂行し、自由闊達な職場を築きます。
  - 虚礼や不透明な慣習等を排除します。
- ② 会社資産の私用禁止
  - 会社資産（経費、物品、ノウハウ等）を私的な目的に使用しません。
- ③ 適正な情報管理
  - 外部の情報は正当な手段で入手し、業務上知り得た取引先の個人情報や非公開情報及び芙蓉総合リース自身に関する機密情報は他に漏らしません。また、入手した情報は、業務上の目的のみに使用し、インサイダー取引等私的な利益は図りません。
  - 特許権や著作権等を含む知的財産権を尊重します。
  - 取引先の満足度を高めるため、積極的に知識の創造・共有化に努めます。
- ④ 利益相反行為の禁止
  - 自分の利益のために、会社の利益または取引先の利益が損なわれることのないよう行動します。
  - 会社における地位を、会社以外のいかなる者の利益のためにも利用しません。
- ⑤ 節度ある私的活動
  - 職務上はもちろん、職務外でも芙蓉総合リースの信用、名誉を傷つけ、または損害を及ぼすような行為は行いません。
  - 職務上はもちろん、職務外でも道路交通法を遵守し、いかなる場合でも飲酒運転は行わないことはもちろん、他人に飲酒運転を行わせることはしません。<sup>※</sup>
  - 社外において私的活動を行うにあたっては、個人の立場で参画し、みだりに社名や役職名を使用しません。
  - 許可なく他業には就きません。

<sup>※</sup>この飲酒運転厳禁については、昨今の世間の動向を踏まえ2006年11月に明記したものです。

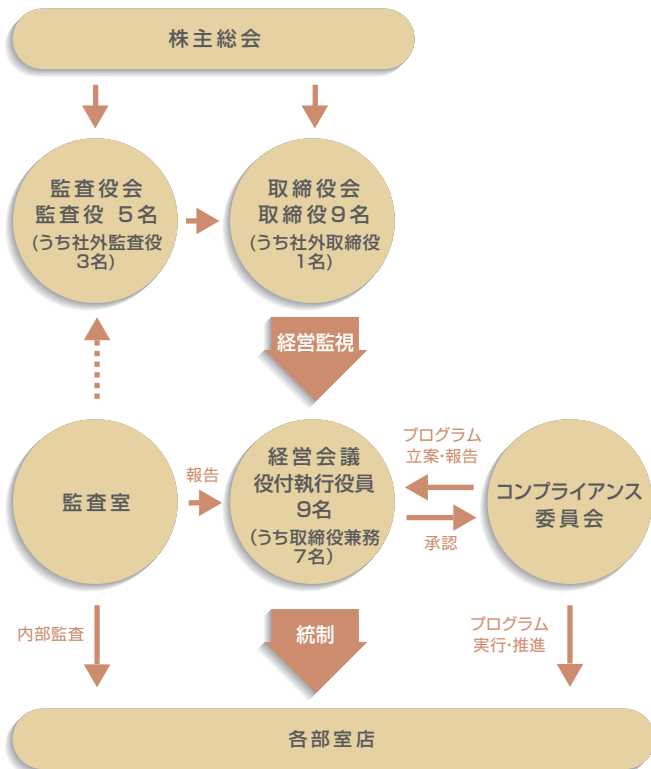
## コーポレート・ガバナンス

芙蓉総合リースグループは、株主、お客様、従業員、地域社会などさまざまなステークホルダーとの関係を重視し「2008年度～2010年度中期経営計画」に掲げる経営目標・基本方針に基づいて誠実かつ公正な企業活動を遂行することが、コーポレート・ガバナンスの基本であり、最も重要な課題であると考えています。

### ■各組織の役割等

芙蓉総合リースの業務執行、監査・監督等にかかわる経営組織その他コーポレート・ガバナンスにかかわる組織は以下のとおりです。

#### ●コーポレート・ガバナンス体制図(2008年6月25日現在)



### 内部統制への取り組み①

2006年6月に金融商品取引法が公布され、内部統制報告制度が導入されました。上場会社等は2008年4月1日から始まる事業年度より、有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法に基づき適正であることの「確認書」、さらに財務計算に関する書類その他の情報の適正性を確保するために必要な体制について評価した「内部統制報告書」を各々有価証券報告書と併せて内閣総理大臣に提出しなければなりません。また、財務計算に関する書類や「内部統制報告書」には公認会計士または監査法人の「監査証明」を受けなければなりません。

芙蓉総合リースは、2006年10月にプロジェクトチームを組成し、体制整備を順調に進めています。

### 内部統制への取り組み②

会社法第362条第4項第6号に基づく「芙蓉総合リースの業務の適正を確保するための体制」は11項目からなり、その方針の要旨は次のとおりです。

#### 1. 取締役、執行役員、及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

芙蓉総合リースの倫理綱領である「芙蓉総合リースの企業行動規範」に基づいた、規程等の制定、従業員教育、内部通報制度の拡充等を通じて遵守体制を整備するとともに、取締役会及び監査役会による監督、監査役、会計監査人及び芙蓉総合リース監査室による監査を通じて取締役、執行役員及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保する。

#### 2. 取締役の職務の執行にかかわる情報の保存及び管理に関する体制

定款、「経営会議規程」及び「稟議規程」に基づき、取締役会議事録、経営会議議事録及び稟議書を作成し、定められた期間保存する。

#### 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

「リスク管理規程」で定めた各リスクの特性や重要性に応じた管理を実施する。また、非常災害の発生に備えた「緊急時対策規程」、情報管理にかかわる「秘密情報管理規程」等により、リスク管理体制の強化に継続して取り組む。

#### 4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

執行役員制による業務分掌の明確化、「職務権限規程」に基づく職務権限の委譲、中期経営計画に基づく計画管理等を実施する。

#### 5. 芙蓉総合リース及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

すべての子会社及び関連会社に取締役を派遣し、主要な子会社については監査室による業務監査を定期的実施する。

#### 6. 芙蓉総合リース及び子会社から成る企業集団における財務報告の信頼性を確保するための体制

全社レベル及び業務プロセスレベルにおいて適切な内部統制を構築する(左記「内部統制への取り組み①」をご参照ください)。

#### 7. 監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する体制

監査役が監査役を補助する従業員を置くことを求めた場合には、所定の手続きに従ってすみやかに当該従業員を配置する。

#### 8. 前項の従業員の取締役からの独立性に関する事項

前項の従業員を置いた場合、取締役からの独立性確保のため、人事異動等については監査役の同意を得るなど必要な措置を講じる。

#### 9. 取締役、執行役員及び従業員が監査役会または監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役、執行役員及び従業員は、監査役会または監査役に対し(1)芙蓉総合リースに著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したときは、直ちにその事実(2)取締役、執行役員及び従業員が法令若しくは定款に違反する行為をし、またはこれらの行為をしようとするおそれがあると考えられるときは、その旨(3)その他、法令及び監査役または監査役会が求めた事項、をそれぞれ報告する。

#### 10. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役会及び経営会議等への出席、重要稟議の回付、監査室からの業務監査結果の報告などにより、監査役が芙蓉総合リースにおける業務執行の状況を常時把握できる環境を提供するとともに、必要に応じ体制の充実を図る。

#### 11. 反社会的勢力との関係を排除するための体制

「芙蓉総合リースの企業行動規範」において市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは断固として対決することを宣言するとともに、反社会的勢力排除に向けたコンプライアンス規程・対応マニュアルの制定、従業員に対する教育研修の実施、警察当局との連携等、組織的な対応を実施し、体制の維持及び対応の徹底を図る。

## リスク管理

芙蓉総合リースグループは、とりまく環境の変化やステークホルダーの状況変化に伴い、業績が変動するなど多様なリスクを抱えています。多様なリスクを適切に管理し、企業価値向上に努めています。

### ■ リスク管理体制

芙蓉総合リースは、「リスク管理規程」において管理すべきリスクを「信用リスク」、「市場リスク」、「流動性リスク」、「事務リスク」、「システムリスク」、「法務リスク」、「レピュテーションリスク」及び「その他のリスク」に区分し、各リスク管理の基本方針に定める体制・方法によりリスクの特性や重要性に応じた管理を実施しています。

今回は、事務リスク、システムリスクの管理状況及び緊急事態対策について、ご報告します。

### ■ 事務リスク

事務リスクとは、役職員が正確な事務処理を怠る、あるいは不正や過失等に起因して不適切な事務が行われることにより、有形無形の損失を被るリスクです。

芙蓉総合リースでは、「事務手続管理規程」に基づき全社の事務手続きを「手続集」に定め、これを役職員に遵守させるとともに、リスク状況の適時把握と適切な対応を行うことにより事務リスクの削減に努めています。

事務リスク削減に向けた次の施策を実施しています。

#### ■ 書類管理センターによる契約書の集中管理

営業部店で作成される大量の契約書類を本社書類管理センターに集中し、内容点検と電子ファイル化を実施し、書類原本は専門の保管会社に集中保管しています。

#### ■ 表彰制度の運営

①書類不備削減、②未整備事項の早期整備、③訂正処理削減を表彰制度に組み入れています。

(但し、表彰要件を満たしていても、コンプライアンス上の観点など諸事情を勘案し、「表彰経営会議」の裁定により、表彰対象から除外することがあります。)

### ■ システムリスク

システムリスクは、コンピュータシステムのダウンもしくは誤作動等のシステムの不備またはコンピュータが不正に使用されることなどにより、お客様へのサービスに混乱をきたすなど、お客様に損失が発生するリスク及び芙蓉総合リースが有形無形の損失を被るリスクです。

システムリスク削減に向けた次の施策を実施しています。

#### ■ ホストコンピュータの障害・災害対策

安全体制を備えた外部の災害に強い建物内のデータセンターにホストコンピュータ(本番機)を設置・運用し、災害時の機器及びデータの保全を高めました。また、本社に設置しているバックアップ機をあわせて稼働させ、データセンターの本番機とリアルタイムにデータの同期をとるシステムを構築し、本番機のホストコンピュータが障害・災害等により停止しても、バックアップ機にシステムを切り替えて事業を継続できる体制となっています。

### ■ 非常災害時の緊急事態対策

緊急事態が発生した際に、役職員の対応が徹底されるよう、次の対策を実施しています。

■ 国内、海外の緊急事態対策として、緊急時対策本部の設置等に関する規程・運営要領を定めるとともに緊急事態発生時における役職員の行動手順等を定める「緊急事態対策の心構え」を各部室店に配付、役職員は小冊子「緊急事態対策のしおり」を常に携帯しています。

■ 大地震への備えとして、什器類の倒壊防止やガラス類の飛散防止等の耐震措置を施すとともに、3日分の食料品や保全用資材等の非常用品を備蓄し、複数の通信手段を本・支店に配備しています。

また、地震発生前の事前対応を目指し「緊急地震速報」受信システムを本社、大阪・新宿支店に導入、他の支店についても順次導入の検討を行います。



## コンプライアンス

芙蓉総合リースグループは、社会的な責任を果たし、信頼性を確保することが、経営における最重要課題の一つと考え、継続的にコンプライアンス・プログラムの推進に努めています。

### ■コンプライアンス・プログラムの推進

芙蓉総合リースグループでは、毎年コンプライアンス・プログラムを策定し、法令の制定、改廃や新たな法制度への対応、情報管理の徹底など、コンプライアンスにかかわる重要テーマを掲げ、研修等により役職員に周知徹底しています。

コンプライアンス・プログラムとは、コンプライアンスを実現するための具体的な実践計画のことをいい、その進捗、見直しについては、コンプライアンス委員会で協議し、コンプライアンス体制の強化・充実を図る施策を講じています。

### ■コンプライアンス相談窓口

2003年3月に社内にコンプライアンス相談窓口を設置していましたが、2008年6月に提携弁護士事務所に社外のコンプライアンス相談窓口を新たに設置しました。両窓口とも、コンプライアンスに関する相談窓口及び「公益通報者保護法」に基づく事業者内部の通報窓口としています。

相談・通報の受付内容は、法令違反などの公益通報に限定せず、芙蓉総合リースグループの企業行動規範に違反する行為や、セクシュアルハラスメントに関する事項の相談、及び業務遂行上「不自然ではないか」「不適切ではないか」と感じた事柄も含め、幅広く受け付ける体制としました。

### ■「FGLグループ・コンプライアンス委員会」について

芙蓉総合リースグループ全体のコンプライアンス向上を目的として、2007年7月から四半期ごとに開催しています。芙蓉総合リースのコンプライアンス統括役員を委員長に、関係会社の社長などコンプライアンス統括責任者が委員として参加し、コンプライアンス全般についての協議・報告を実施しています。

### ■コンプライアンス研修

芙蓉総合リースでは、コンプライアンス・マニュアルを社内イントラネット上に常時掲載して従業員全員の閲覧を可能にしており、毎年1回更新を行って、チェックリストにより各部署内で更新の内容の周知徹底を図っています。

コンプライアンス研修は、集合研修として、全従業員を対象とした研修、階層別研修を実施するとともに、CSRコンプライアンス室からスタッフが支店・関係会社を訪問して研修を行っています。2007年度の研修形態・対象者・テーマ・回数は以下のとおりでした。

#### ● 集合研修

対象者	テーマ	回数
全従業員	不当要求の手口と対応	1回
新入社員	CSR、コンプライアンス入門	2回
役職者等	金融商品取引法等	1回
新任管理者	パワーハラスメント防止等	1回

#### ● 訪問研修

対象者	テーマ	回数
本社・首都圏支店 関係会社社員	セクシュアルハラスメント、 インサイダー取引規制、 秘密情報管理、 飲酒運転厳禁等	1回



コンプライアンス研修  
日本抵当証券

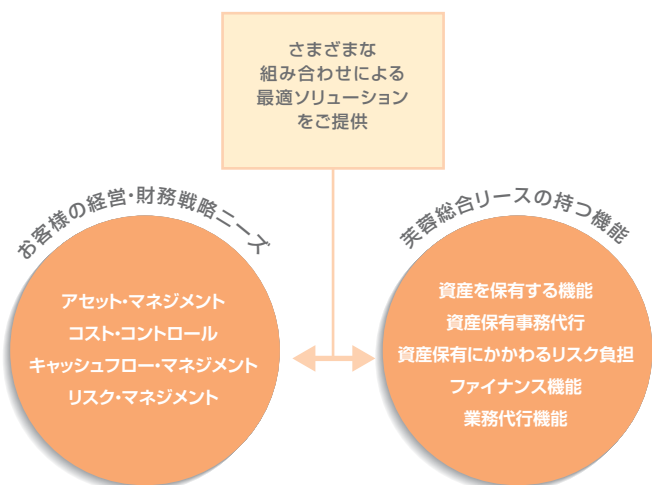
## お客様とのかかわり

芙蓉総合リースグループは、お客様の多様なニーズに柔軟かつ迅速に対応できるサービスのご提供に努めています。そのために、社内外の専門知識・ノウハウを蓄積し、お取引先・金融機関との連携も進めています。

### ■ お客様の多様なニーズに対応するサービス

#### ■ ソリューション型ファイナンス

お客様の経営・財務戦略上の問題点・ニーズを顕在化させるコンサルティングを行い、芙蓉総合リースの持つ機能をフル活用した経営・財務戦略ソリューションをご提供しています。



#### ■ 不動産リース

不動産リースは、リース会社に取り扱う不動産の賃貸借（リース）の総称です。芙蓉総合リースでは、お客様のニーズに応じて各種サービスをご提供しています。

たとえば、スペースリースは、芙蓉総合リースがテナントとなるお客様の希望する店舗物件をビルオーナー様より通常の保証金等で賃借し、お客様に少額の保証金等で転貸する取引です。保証金等の固定化資金をコントロールし、多店舗展開をサポートします。

また、建物リースは、芙蓉総合リースが事業用借地権付建物を所有し、お客様に賃貸する取引であり、長期の資金調達や事務負担の軽減などのニーズに対応しています。

### ■ 営業ナレッジ(knowledge=知識・情報)

芙蓉総合リースグループでは、お客様から直接寄せられる「お客様の声」だけでなく、お客様の潜在的なニーズを社内で共有し、お客様のニーズに応える方法を社内横断的に検討する仕組みを構築しています。

お客様と直接接触する営業担当者が、お客様との会話の中から気づいたヒント・疑問点を社内システムに入力します。類似のケースを知っている他の営業担当者や管理部門が、営業担当者にアドバイスをを行います。このように営業情報の共有化により、お客様のニーズに応えようとしています。

### ■ 情報セキュリティへの取り組み

#### ■ 情報管理体制と取り組み

芙蓉総合リースグループでは、情報管理を徹底するため、2003年度より情報管理体制の評価を実施し、技術・管理・体制面での仕組みを更新しています。

情報管理については、適切な仕組みを社内構築し、従業員に周知・徹底を図っています。

#### ● 過去3年間の主な取り組み等

2005年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物理的・技術的安全管理措置の導入</li> <li>● 委託先との契約管理ルールの変更</li> <li>● 定期的チェックの実施</li> </ul>
2006年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部メール送信部署の自主管理体制の強化</li> <li>● 外部記憶媒体の利用制限実施</li> </ul>
2007年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フィルタリングソフト導入による一部のWebサイトへのアクセス制御</li> <li>● 関係会社の外部メール・データ等の管理強化</li> </ul>

※ 芙蓉総合リースの「金融商品勧誘方針」及び「個人情報保護方針」はホームページに記載しております。詳細は <http://www.fgl.co.jp/> をご参照ください。

たましんリース株式会社様へ  
「FLOW」をご説明する  
芙蓉総合リース立川支店



## ■ 新リース会計基準及び税制の改正

2007年3月30日に企業会計基準委員会より、リース取引にかかわる新しい会計基準<sup>※1</sup>(以下「新リース会計基準」)が公表され、1993年6月17日付のリース会計基準<sup>※2</sup>(以下「改正前会計基準」)が改正されました。

これまで、ファイナンス・リース取引のうち所有権移転外ファイナンス・リース取引は、一定の注記を条件として通常の賃貸借取引にかかわる方法に準じた会計処理(以下「賃貸借処理」)を行うことができましたが、当該処理が廃止となりました。

新リース会計基準では、ファイナンス・リース取引は、通常の売買取引にかかわる方法に準じた会計処理(以下「売買処理」)とされ、同時に、ファイナンス・リース取引の減価償却方法は、所有権移転ファイナンス・リース取引は自己所有の固定資産と同一の方法、所有権移転外ファイナンス・リース取引はリース期間を耐用年数として残存価額をゼロとする方法(償却方法は定額法、級数法、生産高比例法等の中から選択。自己所有の固定資産と異なる償却方法も可)とされました。

これに伴い、平成19年度税制改正において、リース取引(ファイナンス・リース)に関する税務上の取り扱いも売買処理に一本化され、「法人税法及び法人税法施行令」「所得税法及び所得税法施行令」に、リース資産の引渡しの際に売買があったものとして所得の計算を行う等の規定が盛り込まれました。

※1 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第16号「リース取引に関する会計基準の適用指針」

※2 企業会計審査会の大蔵大臣向け答申「リース取引に係る会計基準に関する意見書」

## ■ 新リース会計基準の適用対象

新リース会計基準が強制適用される企業は、会計監査人による会計監査が義務付けられる企業となります。以下に該当しない中小企業については、「中小企業の会計に関する指針」により、所有権移転外ファイナンス・リース取引の賃貸借処理が可能です。

- ・会社法における大会社(資本金5億円以上または負債総額200億円以上)及びその子会社。
- ・金融商品取引法に基づく有価証券報告書提出会社及びその子会社、関連会社。

## ■ 制度改正後のリースメリット

制度改正後も、所有権移転外ファイナンス・リース取引は、定額法による減価償却を行うことにより、リースの特徴の一つであるコストコントロール機能が維持されています。また資金調達機能、事務のアウトソーシング機能など、リース取引には引き続き幅広いメリットがあります。芙蓉総合リースは、引き続きお客様個々のニーズに合わせたリース活用のご提案を行ってまいります。

## ■ 芙蓉総合リースの対応

芙蓉総合リースは、2007年6月よりプロジェクトチームを組成し、お客様へのサポート体制の構築に取り組みました。

お客様に制度改正を正しくご理解いただくため、営業担当者だけでなく、経理部等の専門セクションも一緒にお客様を訪問し、新リース会計基準と税制改正の詳細について説明しています。

また、新リース会計基準に対応した会計資料を無償で提供するサービスを開始しました。「帳票」による提供と、Webによる情報提供サービス「FLOW」をご用意しています。



Webで展開中のサービスマーク

## 株主の皆様とのかかわり

株主の皆様・投資家の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーに対して、適時・適正・公平な情報開示を原則とし、透明性の高い経営を目指しています。

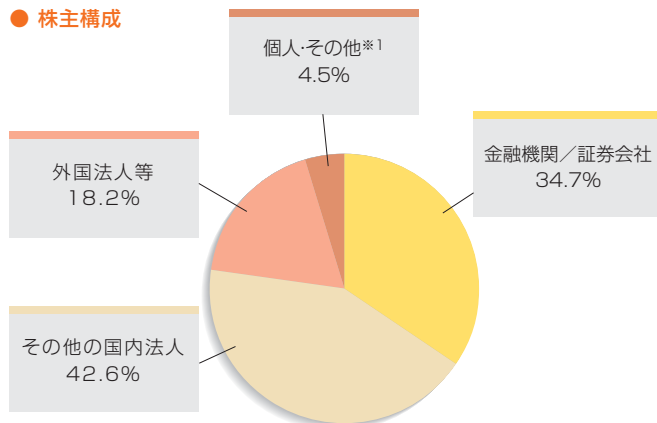
### ■ IR の考え方

芙蓉総合リースは2004年12月に東京証券取引所市場第一部に上場し、開かれた透明性の高い経営を行うことを目指し、わかりやすい情報開示に努めています。

2007年度は、半期ごとの決算説明会のほか、のべ28回にわたり、機関投資家やアナリストの皆様とのミーティングを実施しました。

今後も投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを進め、芙蓉総合リースグループに対する理解を深めていただくことを目指しています。

#### ● 株主構成



#### ● 2008年3月31日現在：株式数ベース

株主数：3,673名

株式数：30,287千株\*2

※1 個人・その他には、自己名義を含んでいます。

※2 千株未満は切り捨てて表示しています。

### ■ 株主還元に関する基本方針

芙蓉総合リースグループは、業績及び経営目標などを勘案し、経営基盤・財務体質の強化を目指して株主資本の充実に努めるとともに、株主の皆様への長期的・安定的な利益還元を努めることを基本方針としています。また、株主の皆様からの日頃のご支援にお応えするため株主優待制度を実施しており、毎年3月31日時点で100株以上を保有いただいている株主様へ、一律3,000円相当のカタログギフト(郵便局の選べるギフト(鳥コース))を贈呈しています。

#### 個人投資家とのコミュニケーション

芙蓉総合リースは、個人投資家の芙蓉総合リースへのご理解をより深めていただけるよう、個人投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に推進しています。

2007年度は、日本経済新聞社等主催の個人投資家向け説明会に2007年7月及び2007年12月に参加し、2008年1月に日本証券業協会 証券教育広報センター主催の個人投資家向けIRセミナーを名古屋にて開催し、約450名の個人投資家にご参加いただきました。

また、芙蓉総合リースのホームページが2008年5月に大和インベスター・リレーションズ株式会社よりインターネットIRサイトの優秀企業として選定されました。

今後も、個人投資家説明会やホームページを個人投資家の皆様との貴重なコミュニケーションの場として、個人投資家の皆様にわかりやすく正確な情報開示を行っていく予定です。



## 地域社会とのかかわり

芙蓉総合リースグループは、地域社会との深いかかわりを認識し、変化する地域社会とのコミュニケーションを続け、地域の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たしていきたいと考えています。

### 社会貢献方針

2007年10月、社会貢献方針を策定しました。2008年度より社会貢献プログラムに基づいて活動を開始しています。

#### 社会貢献方針（抜粋）

第3条（社会貢献の対象分野）	第4条（実施の判断基準）
以下の対象分野について取り組む	以下の基準に照らして実施の判断を行う
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境</li> <li>② 地域社会への貢献</li> <li>③ 学術・研究</li> <li>④ 災害被災地支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会からの理解 公共性が高く、広く社会の理解が得られる取り組み</li> <li>② 当社の特徴を活用 当社のノウハウや商品・サービスを活かした取り組み</li> </ul>

### 社会貢献への取り組み

#### 地域コミュニティ

アクア・アートは、環境教育用の教材として、地元の幼稚園に毎年水槽を寄贈しています。現在までの寄贈台数は7台となりました。



幼稚園に寄贈したアクア・アート水槽

#### 本業を活用した社会貢献

##### ① 教育・研究への貢献

リース事業における循環型社会構築に向けた実務面の最新動向やノウハウなどを、大学やリース事業協会で発表し、教育現場や研究面での活用に積極的に貢献しています。

芙蓉総合リースグループのCSRの取り組みについて親密リース会社に情報発信しました。



2008年2月の芙蓉リース会

##### ② 循環型社会への貢献

芙蓉リース販売は、リース終了物件の廃棄を極力削減し、中古物件の3R<sup>※</sup>を推進していますが、そのノウハウを活用して、2006年度から、お客様の所有する遊休中古資産の査定・売却業務を開始しました。お客様と協同して循環型社会へ貢献しています。

※ 3RとはReduce(リデュース:廃棄物の発生抑制)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再生利用)のことです。

#### エコキャップ運動の実施

エコキャップ運動は、ペットボトルのキャップを集めリサイクルし、海外の子供たちにワクチンを提供するボランティア活動です。

キャップは400個で10円。800個でポリオワクチン<sup>※</sup>1人分になります。

昨年度、芙蓉総合リース静岡支店が自主的に活動を始め、NPO法人「エコキャップ推進協会」へ20kg分のキャップを送りました。この活動を契機に、現在社内に活動の輪が広がっています。

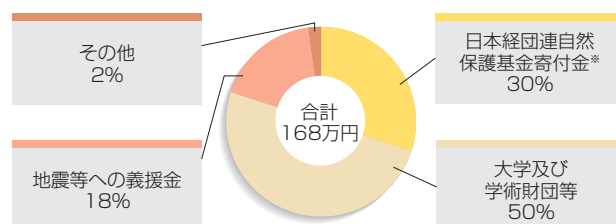
※ ポリオとは「小児マヒ」と呼ばれ、日本でも1960年代前半まで流行を繰り返していました。

#### 寄付等

##### ① 使用済みの切手・プリペイドカードの寄贈

	2006年度	2007年度
使用済みの切手	3,350グラム	4,350グラム
使用済みのプリペイドカード	9,047枚	10,047枚

##### ② 寄付（2007年度）



※ 日本経団連自然保護基金への寄付は、上記のほか従業員の「個人寄付」も実施しています。

## 従業員とのかかわり

芙蓉総合リースグループは、「自ら考え積極的に行動する社員（従業員）を育て、働き甲斐のある職場を創る」を経営理念に、「最高の顧客サービスを創出する強いリース会社」を支える「強い人材」づくりに努めています。

### ■ 人材に対する基本姿勢

芙蓉総合リースグループは、差別のない公平・公正な採用選考を基本方針としています。

また、職場で働く人々が互いに人間性を尊重し、成長できる機会を提供しています。

#### ● 人員構成（2008年3月31日現在、単体ベース）（人）

	男性	女性	合計
総合職	390	21	411
一般職	1	134	135
嘱託	9	3	12
合計	400	158	558

#### ● 平均年齢、平均給与等

※賞与及び基準外賃金含む

	年齢	勤続年数	年間給与
2005年度末	38.3歳	13.4年	7,897千円
2006年度末	38.6歳	13.7年	7,977千円
2007年度末	38.9歳	14.1年	8,018千円

#### ● 女性管理職（人）

2005年度末	6
2006年度末	7
2007年度末	6

#### ● 新卒採用（人）、定着率

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
総合職	16	22	18	23
一般職	5	2	2	6
合計	21	24	20	29
入社3年後の定着率	100.0%	73.1%	96.3%	85.7%
（入社年次）	（2002/4）	（2003/4）	（2004/4）	（2005/4）

#### ● 退職者数（人）、退職事由、離職率

	2005年度	2006年度	2007年度	
総合職	17	17	14	
一般職	6	9	6	
合計	23	26	20	
退職事由				
	自己都合	16	20	14
	定年	5	6	5
	その他	2	0	1
離職率	3.8%	4.2%	3.3%	

### ■ 能力開発、人事処遇、キャリア形成支援

リース事業は、法務、税務・会計、金融、商品、業界動向など幅広い知識が求められる仕事です。

芙蓉総合リースグループでは、お客様に優れたサービスを提供するために、一人ひとりが専門知識を高めていくと同時に、社内に蓄積されたノウハウ・情報を広く共有できる企業風土を目指しています。

#### ■ 研修概要 ～ 各階層別の研修プログラムにより、社員誰もが着実にステップアップできる体制を整備 ～

- 入社後2年間を「リースの基礎・実務知識」習得期間と位置づけ、社内外講師による各種研修等により、着実に知識レベルが向上し、ステップアップできる体制を整備しています。
- 社員一人ひとりの適性・個性や思い描くキャリアデザインに合わせて、必要な研修を自ら選び参加する「自由参加型研修」、社内の特任者を講師とする「社内講師研修」、外部の専門家を招いて開催する「社外講師研修」のほか、「社外セミナーへの参加」、「通信教育」、「資格取得奨励制度」などの多様なメニューを用意しています。

#### ● 社員一人あたりの研修等費用

2005年度	21,600円
2006年度	27,500円
2007年度	24,000円

#### ■ 評価制度概要

- 職責を十二分に全うし、適正なプロセスを経て高い成果を上げた人が報われるように、賞与評価反映幅の拡大等により、能力・職責・成果を重視したメリハリのある評価制度となっています。
- 今後もより一層、公正な処遇の実現と、継続的能力開発を重視した評価の推進を図っていきます。

#### ■ 人権啓発研修

芙蓉総合リースでは、従業員の階層別研修の中で継続的に人権啓発研修を実施しています。また毎年、グループの全従業員に啓発資料を配布するなど、基本的人権を尊重することの大切さを啓発しています。



次世代認定マーク

## ■ 従業員の働きやすさ向上に向けた取り組み

社員一人ひとりの価値観や生活スタイルを尊重しながら、社員の能力と意欲を最大限に引き出すための制度や支援を講じることで、働き甲斐のある職場づくりに取り組んでいます。

### ■ コース転換制度

社員の多様化する就労ニーズに対応し、能力開発意欲の変化に応えるための制度です。2003年4月からの5年間で10人が本制度を利用して、新しいフィールドで活躍しています。



一般職から総合職に転換した財務部/長崎社員(左)と法務室/綾野社員(右)

### ■ 高齢者活用

高齢者雇用安定法に基づき、定年を迎える従業員が長年培った知識や経験を活かし継続して働くことを選択できる継続雇用制度を2006年4月に導入しました。

2008年6月現在、15名の継続雇用者が活躍しています。

### ■ 社内公募制度

芙蓉総合リースでは、自発的キャリア形成を可能とする「社内公募制度」があります。たとえば米国や香港の現地法人に1年半ごとに1名派遣しているトレーニーは、社内公募で応募した社員の中から選抜しています。



2007年度米国現法トレーニーの河野社員

### ■ 自己申告制度

年1回、社員が会社に対して、家族構成・健康状態・自己啓発・職務満足度・今後のキャリアプラン等に関して申告する制度です。社員一人ひとりのキャリアに対する考えを会社が定期的に把握して、人事異動に反映させています。

### ■ 仕事と家庭の両立支援

芙蓉総合リースでは、次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定し、次世代育成支援のための雇用環境の整備に取り組んできました。その結果、2007年4月25日付で東京労働局長より仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組む企業として「基準適合一般事業主」の認定

を受け、「次世代認定マーク」を取得しました。

引き続き経営理念の一つとして掲げる「働き甲斐のある職場づくり」の一環として従業員の仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいきます。

### 第二期行動計画【2007年4月～2009年3月】

- 小学校未就学の子供を持つ社員の半日休暇の取得回数制限を緩和しました。
- (失効年休の)積立休暇の使用制限を緩和しました。
- 毎週水曜日に実施しているノー残業デーを徹底するほか時間外労働を削減するための対策を講じていきます。
- イン트라ネットに掲示している育児休業や短時間勤務等に関する案内を充実し、制度の周知を図っていきます。

### ● 育児休業取得者の声

育児休業を取得後活躍されている先輩の存在が、復職への決心を後押ししました。周囲のご理解もあり、半日休暇・短時間勤務制度も利用して子育てとの両立をやりくりしています。金曜日には子供たちと「一週間お疲れ様！」の乾杯(ビール&ジュース)が格別です！



二度の職場復帰を果たした事務企画部/小野社員

### ■ 快適な職場環境の形成

芙蓉総合リースでは、労働安全衛生法に基づく「衛生委員会」を毎月1回開催し、職場環境の安全衛生水準の維持・向上に努めています。

また、社員一人ひとりの健康管理のため、原則毎週水曜日に「ノー残業デー」を設け時間外労働の削減に努め、また誕生日休暇、結婚記念日休暇などを設けて有給休暇の取得促進にも積極的に取り組んでいます。

### ● その他のパフォーマンスデータ

	2005年度	2006年度	2007年度
育児休業取得者数	7名	6名	7名
定期健康診断受診率 <sup>※1</sup>	97%	96%	96%
障がい者雇用率	1.3%	1.3%	1.3%
労働災害発生件数 <sup>※2</sup>	3件	3件	0件

※1 定期健康診断は、35歳未満までが一般検診、35歳以上40歳未満は成人病検診、40歳以上は人間ドックを実施しています。

※2 通勤途上の道路での転倒によるケガなどで、全件軽症です。

## 経済的パフォーマンス

企業の基盤となる損益状況を強化することは、社会・環境を含めたCSRを実行していく上で必要不可欠です。芙蓉総合リースグループの経済的パフォーマンス（業績）をご報告します。

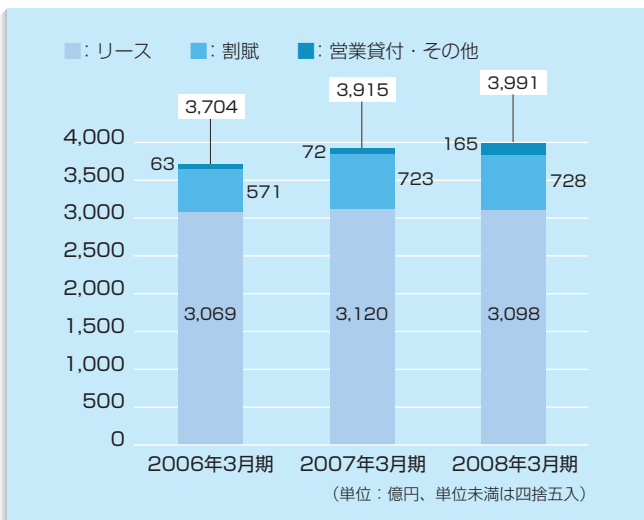
### ■2008年3月期連結決算の概要

芙蓉総合リースグループの2008年3月期の業績（連結ベース）は、売上高3,991億円、経常利益179億円、当期純利益121億円でした。前年度に比較し、売上高1.9%増でしたが、経常利益は0.2%減、当期純利益は1.7%減となりました。売上高の約80%をリースから得ています。営業資産残高では、リース資産が約60%を占めています。

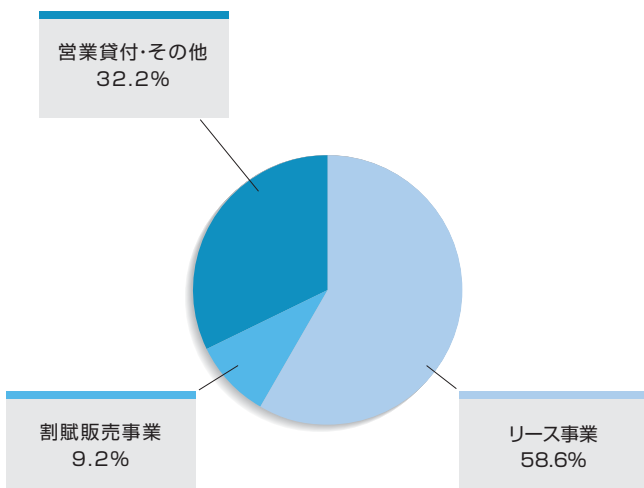
（単位：億円、単位未満四捨五入）

連結	2007年3月期	2008年3月期
売上高	3,915	3,991
売上原価	3,630	3,681
売上総利益	286	309
販売費及び一般管理費	120	148
営業利益	166	162
営業外収益	16	22
営業外費用	3	4
経常利益	180	179
特別利益	16	18
特別損失	1	4
税金等調整前当期純利益	195	194
法人税、住民税及び事業税	77	70
法人税等調整額	△5	3
少数株主利益	0	0
当期純利益	123	121
利益剰余金増減	112	106
うち配当金	12	15

#### ●セグメント別売上高推移(2006年3月期～2008年3月期)



#### ●営業資産残高比率(2008年3月31日現在)



### ■ステークホルダーとの経済的関係

2008年3月期のうち、ステークホルダーとの経済的関係は以下のように試算しました。

（詳細は有価証券報告書 <http://www.fgl.co.jp/> をご覧ください。）

	金額(億円)	試算方法
株主の皆様	15	株主にお支払いした配当金は15億円です。
地域社会		25ページをご参照ください。
従業員及び役員	64	販売費及び一般管理費のうち、従業員人件費は61億円、役員報酬は3億円です。
国・行政当局等	73	法人税、住民税及び事業税から法人税等調整額を調整した金額は73億円です。

## 芙蓉総合リースグループの環境方針

### 環境理念

芙蓉総合リースグループは、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」というグループ経営理念に基づき、企業活動を通じて地球環境の保全に配慮して行動し、次の環境方針に沿って、環境問題への取り組みを推進していきます。

### 環境方針

#### 1. リース事業を通じた地球環境保護

リース、レンタル、金融等の事業活動において地球環境保護に寄与する商品・サービスの提供に努めます。

#### 2. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動に伴う資源・エネルギーの消費による環境への負荷を認識し、省資源・省エネルギー活動及びグリーン購入に努めます。

#### 3. 循環型社会構築への寄与

リース終了物件処分の堅確な事務体制を構築します。

#### 4. 環境関連法令等の順守

環境に関する法令や芙蓉総合リースの同意した協定等を順守します。

#### 5. 環境マネジメントシステムの確立

環境マネジメントシステムを活用して、環境目的及び目標を設定し、定期的見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図り、環境汚染の予防に努めます。

### ▶ 担当役員からのメッセージ

専務取締役 春日川 和夫

北海道洞爺湖サミットが2008年7月7日から9日までの間開催され、先進主要経済国8カ国(G8)のほか発展途上主要経済国・アフリカ諸国の首脳も参画し、世界経済や環境・気候変動などの議論がなされました。今回のG8においては、昨年のハイリゲダム・サミットに引き続き地球温暖化対策が主要テーマとなり、長期目標として2050年までに世界全体の温暖化ガスの排出量を少なくとも50%削減するとの目標を世界各国で共有することが合意されました。また、中期目標としてすべての先進国が温暖化ガスの絶対的削減を達成するために、「野心的な中期の国別総量目標を実施する」ことも合意されました。

このように地球温暖化対策は、各国の個別事情が交錯してはいるものの、今やすべての国にとって無視できない極めて重要な国家的課題です。

このような状況の下で、芙蓉総合リースは関係会社を含め、電気・紙等の使用量削減に向けて具体的数値目標を設定し定期的にその達成状況をフォローしています。ちなみに、芙蓉総合リースの本社ではリース事業協会で策定した電気使用量の2008年度の削減目標(2002年実績比3%減)を達成すべく一丸となつてがんばっています。

さらに、われわれ一人ひとりの“地球人”としては、私生活においても温暖化対策に真剣に取り組まなければなりません。たとえば、白熱電球を電球型蛍光灯にすると消費電力は5分の1程度となる、といわれています。(我が家でも実現しようと思つてるところです。)

このように、地球温暖化防止は、公私にわたる私たち“地球人”の義務といつても過言ではありません。

## 芙蓉総合リースグループの環境目的・目標及び実施計画 (2007年度実績と2008年度目標)

2007年度は芙蓉総合リース本社、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売本社、エフ・ネット本社、アクア・アートでISO14001の認証を維持し、芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室、ワイ・エフ・リーシングで認証を新たに取得しました。

環境方針	環境目的	2007年度環境目標	実施計画・対策(取組内容)
地球温暖化対策 (省資源・省エネルギー活動の推進)	●リース事業協会の地球温暖化自主行動計画に参加		
リース事業を通じた地球環境保護	●環境配慮型物件の取得推進	●成約額:2005年度比+24%を目指す	●営業部表彰制度の環境加算運営を継続
	●PCレンタル・Eco&Valueリース契約の成約推進	●成約額:2005年度比+14%を目指す	●営業部表彰制度の営業部店へのインセンティブ運営を継続
	●環境配慮型ビジネスの研究と支援	●環境配慮型ビジネスの研究と支援	●半期ごとに研究成果を把握する ●半期ごとに有効な支援策を検討する
	●環境関連商品・サービスの提案	●半期ごとに営業人員を基準とした目標設定により、環境関連商品・サービスの提案を実施	●以下の提案活動の実施 ・Eco&Valueリース・レンタルの提案 ・環境配慮型物件のリース・レンタル等の提案 ・FLSでのリース終了物件以外の物件処分受託の提案
省資源・省エネルギー活動の推進	●電気使用量の削減 エコオフィス活動として推進	●芙蓉総合リース本社ビル(社員比) 2005年度比△5% ●芙蓉総合リース支店 2005年度比△2% ●芙蓉リース販売本社(社員比) 2006年度比△1% ●芙蓉リース販売立川リユースセンター(販売物件数量比) 2006年度△3% ●エフ・ネット本社 2005年度比△4% ●ワイ・エフ・リーシング 2005年度比△2% ●アクア・アート 2005年度比△4%	●全部署でエコオフィス活動を行う ●担当部署が進捗状況報告書で実績をフォローし、達成に向けた活動を行う
	●コピー・プリント用紙使用量の削減 エコオフィス活動として推進	●芙蓉総合リース本社ビル(社員比) 2005年度比△7% ●芙蓉総合リース支店 2005年度比△3% ●エフ・ネット本社(事務量比) 2005年度比△7% ●アクア・アート(水槽数量比) 2005年度比△7% ●ワイ・エフ・リーシング 2005年度比△3%	●全部署でエコオフィス活動を行う ●担当部署が進捗状況報告書で実績をフォローし、達成に向けた活動を行う
	●社用車の燃料消費・排ガスの削減 エコオフィス活動として推進	●芙蓉総合リース支店「エコドライブの実践による燃料改善の調査」継続 ●アクア・アート 燃料向上(1リットルあたりの走行距離) 2006年度比+2%	●各車両の燃料消費量と、走行距離を確認
	●グリーン購入の推進 エコオフィス活動として推進	●芙蓉総合リース本社、エフ・ジー・エル・サービス 文具グリーン比率:80% ●芙蓉総合リース支店 文具グリーン比率:70% ●芙蓉リース販売 文具グリーン比率:55% ●エフ・ネット本社 文具グリーン比率:47% ●アクア・アート 文具グリーン比率:40% ●ワイ・エフ・リーシング 文具グリーン比率:70%	●全部署でエコオフィス活動を行う ●半期ごとに目標実現に有効な施策を検討 ●芙蓉総合リース支店の社用車に、エコカー採用を検討
循環型社会構築への寄与	●リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築とリユースの推進	●廃棄処理の適正処理 ●売却促進によるリユースの推進	●産廃業者の格付と臨検を継続して実施する ●自社リース物件以外も含めた売却物件の集中と売却推進
環境マネジメントシステムの確立	●ISO14001の認証取得とその維持、対象範囲の拡大の検討	●芙蓉総合リース本社でのISO14001の認証維持 ●芙蓉総合リース支店でのISO14001の認証取得	●芙蓉総合リース本社 ISO14001 認証審査(定期審査)の受審 ●芙蓉総合リース支店 ISO14001 認証審査(変更審査)の受審
	●関係会社のISO14001の認証取得とその維持、対象範囲の拡大の検討	●エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売本社、エフ・ネット本社、アクア・アートでのISO14001の認証維持 ●芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室、ワイ・エフ・リーシングでのISO14001の認証取得	●エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売本社、エフ・ネット本社、アクア・アートISO14001 認証審査(定期審査)の受審 ●芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室、ワイ・エフ・リーシング ISO14001 認証審査(変更審査)の受審
	●環境教育の定期的実施	●定期的に環境教育を実施	●定期的に環境教育を実施 ●環境教育を更に充実させる企画を立案 ●環境関連の表彰の仕組みを導入
	●CSR報告書を作成し、外部コミュニケーション(IR活動以外)を実施	●第2回目のCSR報告書を作成し、発表 ●外部コミュニケーションを実施	●第2回目CSR報告書の作成と外部コミュニケーションの実施
社会貢献方針	●IR活動の中で、環境活動情報を定期的に提供	●第2回目のCSR報告書をIR活動の利害関係人へ配布	●CSR報告書をIR活動の利害関係人へ配布
	●HPへ環境活動情報を掲載	●第2回目のCSR報告書を掲載	●HPにCSR報告書を掲載
	●地域の環境教育に貢献する【地元幼稚園へ寄贈する水槽は、累計9台とする】	●地元幼稚園へ、環境教育のため水槽を寄贈するボランティアでメンテナンスも行う 累計設置目標7台以上	●2007年度に地元幼稚園に1台寄贈し、ボランティアでメンテナンスも実施
	●芙蓉総合リースの特徴を活かした社会貢献を検討		

評価: 目標を完全に達成した場合は○、完全には達成できなかった場合は△

評価	2007年度 実績	2008年度 目標
—	—	●芙蓉総合リース本社の床面積あたりの電気消費量を基準年度(2002年度)対比3%減とする
○	●2005年度比+70%を達成	●2005年度比+33%を目指す
○	●2005年度比+40%を達成	●2005年度比+24%を目指す
○	●排出権取引などの新分野を研究 ●2008年3月、排出権管理口座を開設	●半期ごとに研究成果を把握する ●半期ごとに有効な支援策を検討する
○	●目標を設定した全営業部店(特定部を除く)で、目標達成	●以下の提案活動の実施 ・Eco&Valueリース・レンタルの提案 ・環境配慮型物件のリース・レンタル等の提案 ・FLSでのリース終了物件以外の物件処分受託の提案
○	●芙蓉総合リース本社ビル(社員比) 2005年度比△8%と目標達成 ●芙蓉総合リース支店 2005年度比△17%と目標達成 ●芙蓉リース販売本社(社員比) 2006年度比△6%と目標達成 ●芙蓉リース販売立川リユースセンター(販売物件数量比) 2006年度比△16%と目標達成 ●エフ・ネット本社 2005年度比△7%と目標達成 ●ワイ・エフ・リーシング 2005年度比△13%と目標達成	●芙蓉総合リース本社ビル(社員比) 2007年度比△2% ●芙蓉総合リース支店 2007年度比△2% ●芙蓉リース販売立川リユースセンター(販売物件数量比) 2007年度比△3% ●エフ・ネット本社技術部 2005年度比△10% ●エフ・ネット営業本部 使用量調査 ●ワイ・エフ・リーシング 2005年度比△3% ●アクア・アート 2005年度比△2%
△	●アクア・アート 2005年度比△2%と目標未達成	
○	●芙蓉総合リース本社ビル(社員比) 2005年度比△8%と目標達成 ●芙蓉総合リース支店 2005年度比△19%と目標達成 ●エフ・ネット本社(事務量比) 2005年度比△32%と目標達成 ●アクア・アート(水槽数量比) 2005年度比△43%と目標達成 ●ワイ・エフ・リーシング 2005年度比△19%と目標達成	●芙蓉総合リース本社ビル(社員比) 2007年度比△2% ●芙蓉総合リース支店 2007年度比△2% ●芙蓉リース販売(社員比) 2007年度比△1% ●エフ・ネット(事務量比) 2005年度比△26% ●アクア・アート(水槽数量比) 2005年度比△27% ●ワイ・エフ・リーシング 2005年度比△10%
○	●芙蓉総合リース支店 燃費調査を実施、エコドライブの点検に活用 ●アクア・アート 燃費向上(1リットルあたりの走行距離) 2006年度比+2%と目標達成	●芙蓉総合リース支店 エコドライブの実践 ●アクア・アート 燃費向上(1リットルあたりの走行距離) 2006年度比+2%
○	●芙蓉総合リース本社、エフ・ジー・エル・サービス 文具グリーン比率:86%と目標達成 ●芙蓉総合リース支店 文具グリーン比率:78%と目標達成 ●芙蓉リース販売 文具グリーン比率:82%と目標達成 ●エフ・ネット本社 文具グリーン比率:61%と目標達成 ●アクア・アート 文具グリーン比率:69%と目標達成	●芙蓉総合リース本社、エフ・ジー・エル・サービス 文具グリーン比率:85% ●芙蓉総合リース支店 文具グリーン比率:75% ●芙蓉リース販売 文具グリーン比率:85% ●エフ・ネット 文具グリーン比率:使用量調査 ●アクア・アート 文具グリーン比率:使用量調査 ●ワイ・エフ・リーシング 文具グリーン比率:75%
△	●ワイ・エフ・リーシング 文具グリーン比率:64%と目標未達成	
○	●産廃業者の臨検を計画どおり、年間37カ所実施 ●親密リース会社、ユーザー所有遊休資産の買取・転売実施	●廃棄処理手続の適正化推進 ●売却促進による3Rの推進
○	●芙蓉総合リース本社 2007年6月 ISO14001認証審査(定期審査)を受審し、認証維持済 ●芙蓉総合リース支店 2007年6月 ISO14001認証審査(変更審査)を受審し、認証取得済	●芙蓉総合リース本社でのISO14001の認証維持 ●芙蓉総合リース支店でのISO14001の認証維持
○	●エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売本社、エフ・ネット本社、アクア・アート 2007年6月 ISO14001認証審査(定期審査)を受審し、認証維持済 ●芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室、ワイ・エフ・リーシング 2007年6月 ISO14001認証審査(変更審査)を受審し、認証取得済	●エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、エフ・ネット本社及び西東京分室、アクア・アート、ワイ・エフ・リーシングでのISO14001の認証維持 ●エフ・ネット営業本部でのISO14001の認証取得
○	●2007年5月 環境eラーニング 実施 ●2007年10月~11月 エコドライブDVD研修 実施 ●2008年1月~2月 環境関連法令コンプライアンスチェック 実施 ●「環境社会検定試験(eco検定)」を資格取得奨励基準へ追加	●定期的に環境教育を実施
○	●2007年10月、第2回目となる「CSR報告書2007」を発行、お客様等への外部コミュニケーションに活用	●第3回目のCSR報告書を作成し、発表 ●外部コミュニケーションを実施
○	●「CSR報告書2007」をIR活動の利害関係人へ配布	●CSR報告書をIR活動の利害関係人へ配布
○	●2007年10月 「CSR報告書2007」をHPIに掲載	●第3回目のCSR報告書を掲載
○	●2008年1月 中央区立泰明幼稚園に1台寄贈、メンテナンスも実施 ●累計設置台数7台達成	●地元幼稚園へ、環境教育のため水槽を寄贈する ボランティアでメンテナンスも行う 累計設置目標8台以上
—	—	●2008年度社会貢献プログラムに基づく活動を実施する

## 芙蓉オートリースの環境目的・目標及び実施計画 (2007年度実績と2008年度目標)

2007年11月からISO活動を開始しました。  
2008年7月にはISO14001の認証を取得しました。

※1 インターネットで車両情報を提供するサービス

環境方針	環境目的	2007年度環境目標	実施計画・対策(取組内容)
リース事業を通じた地球環境保護	●環境関連商品・サービスの提案	●エコカーリース・割賦の提案と車両管理システム「Look up!」※1の導入提案を実施する	●対象の営業部店一人あたり半期に5件のエコカーリース・割賦の提案をする ●車両管理システム「Look up!」の提案
	●エコカー導入の提案推進・支援	●営業部店のエコカー導入提案に有効な営業施策の検討・実施と提案実績の把握	●毎月提案実績を把握する ●半期ごとに目標達成に有効な営業施策を検討する
	●車両管理システム導入提案	●営業部店に車両管理システム導入工作を促し、案内書類の削減につなげる	●毎月提案実績を把握する ●半期ごとに目標達成に有効な営業施策を検討する
省資源・省エネルギー活動の推進	●電気使用量の削減 エコオフィス活動として推進	●調査を実施し、目標値を検討する	●全部署でエコオフィス活動を行う ●調査を実施し、目標値を検討する
	●用紙使用量の削減 エコオフィス活動として推進		●全部署でエコオフィス活動を行う ●調査を実施し、目標値を検討する
	●社用車の燃料消費・排ガスの削減 エコオフィス活動として推進	●調査を実施しグリーン購入比率を向上させる目標を検討する	●該当支店でエコオフィス活動を行う ●各車両の燃料消費量と、走行距離を確認する
	●グリーン購入の推進 エコオフィス活動として推進		●全部署でエコオフィス活動を行う ●半期ごとに目標実現に有効な施策を検討する
	●交通事故の低減及び燃料消費量の低減		●ユーザーへ事故の防止、燃料消費量低減となる運転を呼びかける ●グリーンカタログを使用し、グリーン購入の意識の向上を図る
循環型社会構築への寄与	●リース終了車両処分の堅確な事務体制の構築とリユースの推進	●リース終了車両のリユースの推進と廃棄車両の適正処理	●入札会・オークション等の活用によるリース終了車両のリユースの推進 ●リサイクル率の高い業者の選定によるリサイクルの推進 ●廃棄車両の処分管理の徹底
	●中古及び再生部品の積極的な活用	—————	—————
環境関連法令等の順守	●車両整備時に発生する廃棄物の適正な処理	●提携工場へ廃棄物の適切な処理を呼びかける	●提携工場及び関係業者へ環境活動に関する協力依頼書を発送し、廃棄物の適切な処理を呼びかける
環境マネジメントシステムの確立	●ISO14001の認証取得 ●環境教育の定期的実施	●ISO14001の認証取得の準備 ●定期的に環境教育を実施する	●ISO14001に基づいた環境マネジメントシステムの構築 ●定期的に環境教育を実施する

※2 芙蓉オートリースの専門スタッフがお客様のご要望に合わせて、ビデオ、講義、適性検査を使って行う講習会



評価:目標を完全に達成した場合は○、完全には達成できなかった場合は△

	評価	2007年度 実績	2008年度 目標
	△	●エコカー提案については、2部店(営業二部、東北支店)で未達成	●対象の営業部店一人あたり半期に5件のエコカーリース・割賦の提案
	○	●全営業部店で提案を実施	●車両管理システム「Look up!」の拡販
	○	●毎月提案実績を把握	●営業部店のエコカー導入提案に有効な営業施策の検討・実施と提案実績の把握
	○	●営業部店へ報告体制、エコカーの定義を徹底提案に役立つチラシを作成	
	○	●毎月提案実績を把握	●営業部店に車両管理システム導入作業を促し、案内書類の削減につなげる
	○	●車両管理システムの機能を追加 若手研修、営業部店への連絡により周知徹底	
	○	●エコオフィス活動を実施 ●使用量調査を実施	●社員比2007年度比△2%
	○	●エコオフィス活動を実施 ●使用量調査を実施	●社員比2007年度比△2%
	○	●各車両の燃費調査を実施 ●エコドライブの点検を検討中	●各車両の燃料消費量と走行距離を確認
	○	●エコオフィス活動を実施	●全部署でエコオフィス活動を実施
	○	●本社、支店の文具購入ルートを決出し、グリーン比率報告体制を構築	●グリーン実績調査を実施し、下期に目標値を設定
	○	●本社、支店のグリーン比率を調査し発表 ●全社員のグリーン購入の意識を向上	●グリーンカタログを使用し、グリーン購入の意識を向上
	○	●「安全運転講習会」の開催数 28社56回	●「安全運転講習会」の実施 月8回、年間96回
	○	●リース終了車両のリユース推進 処分台数における売却台数の比率93%	●入札会・オークション等の活用によるリース終了車両のリユースの推進
	○	●自動車リサイクル業者で環境活動を推進している「NGP協同組合」を通じて、業者のリサイクル状況を研究	●ISO14001認証取得業者の活用を推進
	○	●環境展示会の資料や自動車リサイクル法、廃棄物処理法の勉強会を実施	●部内勉強会実施による廃棄車両の処分管理の徹底
	—	—————	●車両修理(部品交換)時に、中古及び再生部品の活用が可能なものについては、積極的に中古及び再生部品を活用(実績把握)
	○	●提携工場及び元請会社76社に発送	●認証後、提携工場及び関係業者へISO14001認証取得案内文を発送
	○	●環境マネジメントシステムの構築・運用、認証取得準備完了 ●2007年11月 部店長研修、部店内研修 ●2007年12月 本社の朝礼でエコ手続きの説明 ●2008年1月 内部環境監査員研修	●ISO14001の認証取得 ●定期的に環境教育を実施

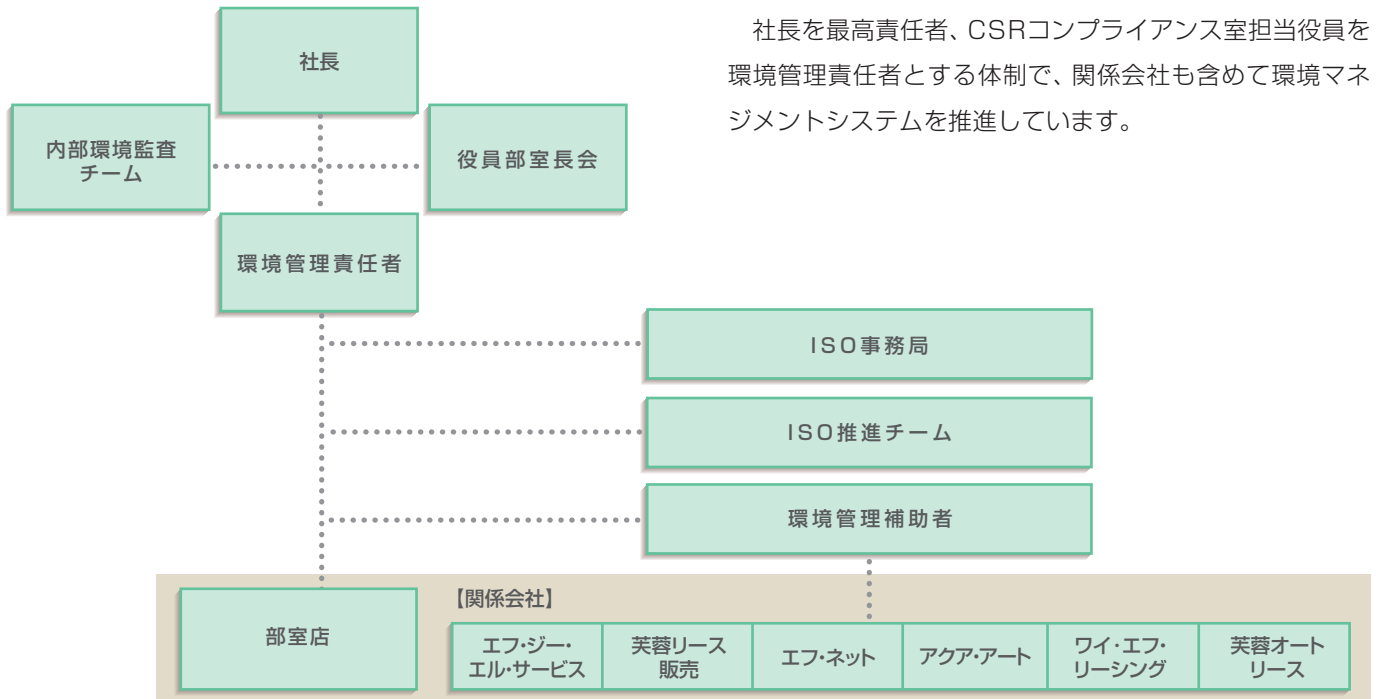
## 環境マネジメントシステム

2008年度～2010年度中期経営計画基本方針に

「CSRを重視し、コンプライアンスの徹底と強い人材の育成を図る」を掲げています。

具体的には、中期経営計画の基本戦略に「環境・社会に貢献する経営体制を目指し、経営管理基盤充実・強化に取り組む」とし、環境マネジメントシステムを構築しています。

### ■ 環境マネジメントシステム体制



社長を最高責任者、CSRコンプライアンス室担当役員を環境管理責任者とする体制で、関係会社も含めて環境マネジメントシステムを推進しています。

### ■ 内部環境監査・外部審査

内部環境監査や外部審査などを活用し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。

#### ■ 内部環境監査

2007年度の内部環境監査は、ISO14001の認証取得範囲を拡大する関係会社を含め、全適用範囲において実施しました。その後、現場の部室店、関係会社で理解を深めるためのロールプレイングによる勉強会を実施しました。

外部審査  
芙蓉オートリース本社



#### ■ 外部審査

2008年7月にISO14001の外部審査を受けました。審査結果やご指導いただいた点を参考として、今後も継続的な改善を実施していきます。

#### ● 内部環境監査

	2006年度	2007年度
被監査部署	本社部室.....30部室 支店.....28支店 関係会社.....5社 事務局等.....4組織	本社部室.....31部室 支店.....28支店 関係会社.....6社 事務局等.....4組織
重大な不適合	0件	0件
軽微な不適合	0件	0件
改善事項	0件	—
改善の機会	—	39件
優良事項	0件	0件

※ 2007年度より判定区分の「改善事項」を「改善の機会」に変更しました。  
改善の機会: 今後、良くするためのアドバイス

#### ● 外部審査 (2008年7月)

審査結果	件数
ストロングポイント (優良点)	1件
改善指摘事項	1件
改善の機会	11件

※ 改善の機会: 今後、良くするためのアドバイス  
【ストロングポイントの内容】・排出権信託受益権の購入  
【改善指摘事項の内容】・関係会社における環境側面の特定

## ■ 環境関連法令等の順守

環境関連法令等については、以下の仕組みにより全役職員の順守を徹底しています。

2008年2月～3月の点検結果：  
法令違反 0件

### ● 役職員への周知

「環境関連法令マニュアル」を社内イントラネットに掲載

現場の部室店、関係会社で、環境マネージャーによる勉強会を実施  
(コンプライアンス1次チェック)

### ● 定期点検・順守評価

専門部室、関係会社による定期点検(2月～3月)  
(コンプライアンスマスターチェック)

一般部室店は、案件採り上げ時にチェックリストにより評価し、法務室へ

### 主な環境関連法令等

- 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律  
(建設リサイクル法)
- 使用済自動車の再資源化等に関する法律  
(自動車リサイクル法)
- 特定家庭用機器再商品化法  
(家電リサイクル法)
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律  
(廃棄物処理法)
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)など

## ■ 環境教育

環境省作成のDVD「エコドライブ10のすすめ」による研修を、社用車のある27支店で実施しました。エコドライブをさらに推進する有意義な研修となりました。

なお、当研修は「チーム・マイナス6%事務局」のホームページで紹介されました。



エコドライブ研修  
芙蓉総合リース池袋支店

### ● 環境教育研修

#### 研修内容

#### 社員等研修

- ① 2007年10月～12月  
支店「エコドライブ10のすすめ」DVD研修
- ② 2007年10月～12月  
「CSR報告書2007」研修
- ③ 2007年4月～2008年3月  
内部環境監査ロールプレイング研修
- ④ 2008年5月  
環境eラーニング

#### 内部環境監査員研修

2008年1月  
内部環境監査員研修

### 環境への意識向上のために

芙蓉総合リースでは、従業員の環境保護意識の向上を図るために、自然・環境をテーマにした写真を募集しています。



## オフィスにおける環境への取り組み

オフィスにおける環境負荷を低減するため、芙蓉総合リースグループの従業員一人ひとりが、オフィスでの省資源・省エネルギー活動に取り組んでいます。

### ■ チーム・マイナス6%における活動

地球温暖化対策推進国民運動「チーム・マイナス6%」の活動として、会社でのエコオフィス活動の推進、家庭での「めざせ！1人、1日、1kg CO<sub>2</sub>削減」運動の「私のチャレンジ宣言」への参加の奨励に取り組んでいます。

2008年6月21日、7月7日の両日には「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」に参加し、芙蓉総合リース本社ビルの専有フロア、国内支店及び関係会社事務所スペースをすべて午後8時から10時の間消灯しました。



### ■ エコオフィス活動の推進

芙蓉総合リースグループでは、電気使用量の削減、コピー等の用紙使用量の削減、ゴミの分別、グリーン購入の推進をエコオフィス活動と呼び、ISO14001の環境目的・目標及び実施計画に基づいて活動を行っています。

#### ■ スキャナーの導入

スキャナーを31カ所に導入しました。社内事務の効率化のためですが、用紙使用量の削減推進にも大いに寄与しています。

#### ■ 本社ビル エコ対応蛍光灯への交換

芙蓉総合リース本社ビルでは、エコ対応蛍光灯への交換を順次実施していくことになりました。

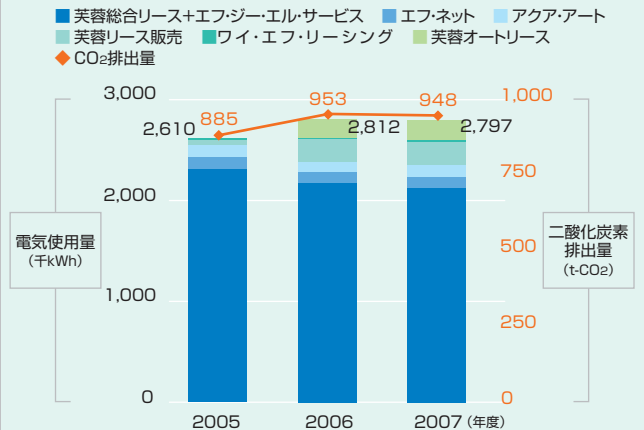
本社ビルのすべて(1,910本)が交換されれば、年間では15kWhの電気使用量削減となります。

#### ■ グリーン購入の推進

グリーンカタログに基づき、文房具のグリーン購入を推進していますが、古紙をはじめとする偽装問題の発覚により一部の関係会社においては、2008年度よりグリーン購入の目標を使用量調査への切り替えに余儀なくされました。

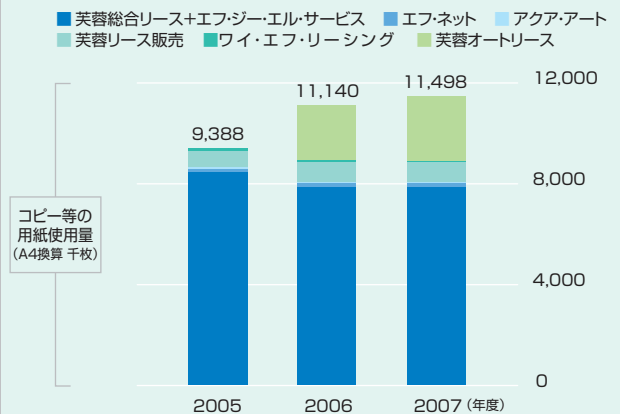
2007年度にはエコカー(東京都環境確保条例に定める超低公害車)を9台導入しました。

#### ● 電力使用量と二酸化炭素排出量の推移

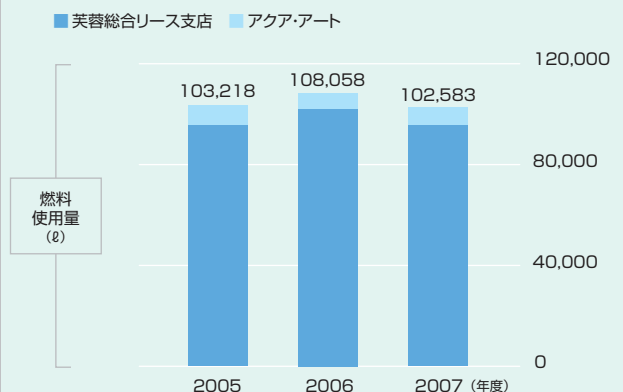


※二酸化炭素排出係数は、東京電力のサステナビリティレポート2007の数値を使用しています。

#### ● コピー等の用紙使用量の推移



#### ● 営業車燃料使用量の推移



## 2007年度 芙蓉総合リースグループ環境会計

芙蓉総合リースグループでは、環境活動をよりわかりやすくお客様をはじめとしたステークホルダーの皆様にご報告するため、環境会計を導入することとしました。芙蓉総合リースグループの環境会計は基本的に芙蓉総合リースグループの「環境目的・目標及び実施計画」における環境取り組みごとに集計を行っています。

### ■ 自らの環境保全対策に関する環境会計

芙蓉総合リースグループ内の環境保全取り組みを評価するためのものです。基本的には環境省の「環境会計ガイドライン」の考え方に従い、環境取り組みごとに環境保全コストや環境保全効果を把握しています。

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果(万円)
			投資(万円)	費用(万円)	CO <sub>2</sub> 排出削減量(t-CO <sub>2</sub> )	廃棄物排出削減量(ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	9 <sup>*1</sup>	—	134
		グリーン電力購入		50	34 <sup>*1</sup>	—	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				—	0	13
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			1	13 <sup>*1</sup>	—	△28
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			16,687 <sup>*2</sup>	—	200 <sup>*3</sup>	38,461
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大 <sup>*4</sup>			3,196			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献 <sup>*5</sup>			265			
合計			0	20,199	56	200	38,580

—:該当データはありません /:当環境会計では計上していません

注) 芙蓉総合リース、エフ・ジー・エル・サービス、エフ・ネット、アクア・アート、芙蓉リース販売、ワイ・エフ・リーシングを対象としています。

<sup>\*1</sup> 二酸化炭素排出係数は、東京電力のサステナビリティレポート2007の数値を使用しています。

<sup>\*2</sup> リユース及びリサイクルにかかわる経費(15,470万円)と産業廃棄物処理業者の管理にかかわる経費(1,217万円)です。

<sup>\*3</sup> PC及びTFT液晶のリユース及びリサイクルによる効果です。

<sup>\*4</sup> ISO14001の拡大として芙蓉総合リースの全支店、ワイ・エフ・リーシング、芙蓉リース販売立川リユースセンター、エフ・ネット西東京分室で認証を取得しました。

<sup>\*5</sup> 地元幼稚園へのアクアリウム水槽の寄贈及び無償メンテナンス作業です。

### ■ リース事業を通じた地球環境保護に関する環境会計

芙蓉総合リースグループでは、本業であるリース事業においても地球環境保全に貢献するビジネスを行っており、これらの社会的な効果(お客様での効果)を芙蓉総合リースグループ独自の算出方法によって試算しました。

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供 <sup>*1</sup>	金融機能を通じてサポートしたお客様が削減できる排出量(試算) <sup>*2</sup>		
				CO <sub>2</sub> 排出削減量(t-CO <sub>2</sub> /年)	廃棄物排出削減量(ton)	
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	芙蓉総合リース	環境配慮型物件 <sup>*3</sup>	40億円	12,566 <sup>*4</sup>	—
		芙蓉オートリース	エコカー <sup>*5</sup>	5,002台	6,350 <sup>*4</sup>	—
	再生可能なエネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進			7億円	3,850 <sup>*4</sup>	—
	PCレンタル・Eco&Valueリース契約の成約推進			43,900台	—	289 <sup>*6</sup>

—:該当データはありません

注) 芙蓉総合リース、ワイ・エフ・リーシング、芙蓉オートリースを対象としています。

<sup>\*1</sup> 今年度に契約した契約金額、台数などを掲載しています。

<sup>\*2</sup> 一般的な設備等の価格とその効果との関係を利用して試算した効果であり、実際の効果とは異なります。

<sup>\*3</sup> 芙蓉総合リースが環境配慮物件と定義している物件のうち、コージェネ、省電力設備、空調機器について効果を算出しています。

<sup>\*4</sup> 環境配慮型物件(またはプロジェクト)によってお客様が1年間に削減できるCO<sub>2</sub>排出量です。次年度以降もそのリース物件(またはプロジェクト)を継続する場合、前年度と同等の効果が続きます。二酸化炭素排出係数は、東京電力のサステナビリティレポート2007の数値を使用しています。

<sup>\*5</sup> 芙蓉オートリースがエコカーとして定義している物件のうち、低排出ガス車、ハイブリッド車、LPG車(5,002台)について効果を算出しています。

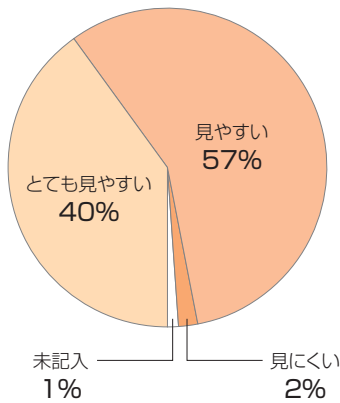
<sup>\*6</sup> 今年度に成約したPCがすべてリユースされた場合の効果です。

# 「CSR報告書2007」アンケート結果

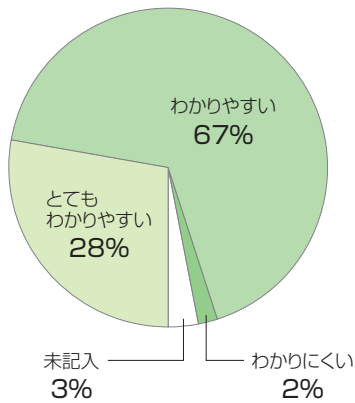
2007年10月に発行した「CSR報告書2007」に対して、  
さまざまなご意見・ご感想をいただきました。

2008年4月末時点で203名の方からアンケートのご回答をいただくことができました。  
この場を借りて皆様方のご協力を厚く御礼申し上げます。

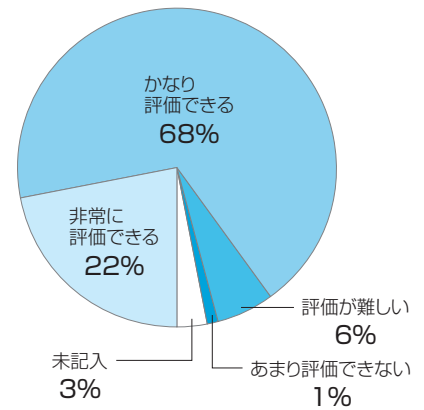
## ● デザインについて



## ● 内容について



## ● 芙蓉総合リースグループのCSRの取り組み



## ● ご関心をいただいた記事

第1位	リース事業と環境	第7位	環境目的・目標及び実施計画
第2位	コンプライアンス	第8位	コーポレート・ガバナンス
第3位	リース事業とCSR	第9位	芙蓉総合リースの歩みと企業行動規範
第4位	リスク管理	第10位	社会貢献
第5位	リース終了物件等のリユース・リサイクル・適正処理	第10位	教育・研修制度
第6位	Eco&Valueリース	第10位	環境マネジメントシステム

主なご意見・ご感想	「CSR報告書2008」への反映
① 図や表を取り入れ、わかりやすく見やすいレイアウトになっている。 詰め込み過ぎ。字を大きくするなど見やすくしてほしい。 細かな情報が多く要点をつかみにくい。	できる限り工夫しました。
② 目的に応じて「簡易版」「詳細版」に分ける工夫などはいかがでしょう。 報告内容を少し簡素化した方が、もっと目を通しやすくなると思います。	ダイジェスト版を発行しました。
③ アンケートの個別項目を見ながら、このような項目があったのかとパンフレットを見直した。 アンケートのQ3のチェック項目については、特に関心を持った。	目次に、簡単な内容紹介を導入しました。
④ リース会社としての環境問題への取り組みについては、リース終了物件の3R、特に立川リユースセンターの取り組みに関心を持っております。	立川リユースセンターの取り組みを2ページにわたって紹介しました。
⑤ 昨年度のCSR報告書より、具体的行動成果が早い速度で実施されていることがよくわかります。 全社の取り組みが大変な努力だと感じます。	できる限り年度計画と実績を掲載しました。
⑥ 環境教育については参考にしたい取り組みたい。	芙蓉総合リースも環境活動の先進企業の取り組みを参考にしています。
⑦ 従来金融的な側面からしか見ていなかったリースについて、複合的なソリューションとして見直す必要性を感じました。	今後もリース事業を通じたCSR活動に努めます。

今後もいただいたご意見をCSR報告書の作成やCSR活動に活かしていきたいと考えております。よろしければ、添付のアンケートにご記入の上、FAX等にてお送りいただければ幸いです。

芙蓉総合リース株式会社 CSRコンプライアンス室 宛 FAX 03(5275)8854

株式会社 大和総研  
経営戦略研究所  
主任研究員  
河川 真理子 氏



### プロフィール

一橋大学大学院修士課程修了（公共経済学、環境経済学専攻）  
大和証券入社後、大和総研に転籍、企業調査部、経営コンサルティング部を経て、現在、経営戦略研究所 主任研究員  
主な研究テーマは、環境経営、企業の環境評価、環境会計、環境報告書、社会的責任投資（SRI）、企業の社会的責任  
サステナビリティ日本フォーラム評議員、南山大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師

昨年の報告書に引き続き今年も本報告書に関する第三者意見を述べさせていただきます。まず昨年指摘させていただいた点について、複数進展が見られた点を評価いたします。

昨年は、リース事業の社会的意義及び環境保全に対して果たす役割について、ステークホルダーにわかりやすく明示することを提案しました。本報告書においては、「リース事業を通じ社会への貢献」が特集され、「モノの消費や所有にこだわらず、モノの持つ機能を提供する事業」として明確にリース事業の環境的意義を位置づけています。また省エネを促進するESCOサービスや、排出権ビジネス、カーボンオフセット、Eco&Valueリースなどについても言及されています。ただし、それぞれ短い記載なので具体的なイメージがつかみづらい嫌いがあります。さらに、リース事業における環境配慮ビジネスの目玉であるEco&Valueリースについては、どのような事業なのかについて具体的な説明が今年は省略されてしまっているのは残念です。中心となる事業ですので、毎年その具体的な内容の進展も含めてきちんと説明してはどうでしょうか。

一方、リース事業の環境上の利点として、使用後のリース物件の処理・管理がリース会社の責任においてきちんと行われることがあります。この点については、より具体的な記述事例が欲しいと昨年指摘しましたが、立川リユースセンターの活動、廃棄物処理の管理及び処理委託先企業の情報について本報告書では掲載されており、使用後の状況がきちんとイメージしやすい報告書となりました。

こうした環境保全の取り組みは、環境報告のページにパ

フォーマンスデータとして目標と実績が報告され、きちんとPDCAが回っていることを裏づけています。しかし、主力のPCレンタル・Eco&Valueリース契約の2007年度の実績が2005年度比+40%なのに、2008年度の目標が、2005年度比+24%というのは、継続的改善という点から残念です。さらに、オフィスにおける環境負荷が増えている点については、その理由背景の分析を掲載すべきでしょう。

なお、社会性の取り組みについて、昨年指摘した従業員とのかかわりについては、より具体的詳細な情報が開示されている点は評価できますし、制度面での充実もうかがえます。ただし内容を見ると女性活用などの実績値は改善の余地が大きいようです。今後は、制度づくりだけでなく具体的な戦略もぜひ策定してください。

また、ステークホルダーとの対話については、顧客企業との対話という他社にはあまり見ないユニークな試みをしています。ただ具体的な対話の内容についての記述がないのは残念です。こうした対話が自社のCSR活動にどのように活かされたのか、また顧客企業のCSR活動にもどのような影響があったのか、がわかるとより説得力が増したと思われる。

社長メッセージは、社長交代直後ということもあってか、ご挨拶に近い内容にとどまっています。細かく読むと地味ながら着実な取り組みをしていることがうかがえる活動内容なので、来年は是非とも経営戦略に結びつけた強いコミットメントを期待いたします。



〒101-8380 東京都千代田区三崎町3丁目3番23号(ニチレイビル)  
TEL:03(5275)8800(代) <http://www.fgl.co.jp/>